

第2章 過疎地域への移住者に対するアンケート調査

2-1. 調査の概要

(1) 調査の目的

「田園回帰」の要因を分析する上で、実際に過疎地域に移住した人がどのような意識・背景から移住に至ったのかを把握することは極めて重要である。

このため、過疎地域市町村に転居した人を対象としたアンケート調査を実施し、過疎地域への移住の背景や移住理由、移住者の特性等について分析した。

(2) 調査の実施方法

- ・アンケート票は平成 28 年度の転入実績等を参考に配布部数を見積り、総務省から各市町村に郵送。
- ・平成 29 年 11 月 7 日から 12 月 5 日の間に、過疎関係市町村（一部過疎市町村を除く 672 市町村）の窓口において、転入届を提出した本人にアンケート票及び返信用封筒を配布（郵送にて回収）。
- ・主な調査項目は以下のとおり（設問の一覧は次頁を参照）。
 - ▶ 転居した方の属性（家族構成、住所、職業等）
 - ▶ 地域の魅力や農山漁村地域（田舎暮らし）への関心が転居へ与えた影響の有無
 - ▶ 転居理由や転居先の決定理由、移住の際に利用した行政施策など

(3) 配布数・回答数

配布数 4,362 票 回収数 1,000 票（回収率 22.9%）

(4) 設問一覧

設 問	回答形式
問 1. あなたの性別を選択してください。	単一
問 2. あなたの年齢を選択してください。	単一
問 3. あなたに配偶者はいますか。有無を選択してください。	単一
問 4.(1) 転居前のあなたの家族構成を選択してください。	単一
問 4.(2) 転居後(予定)のあなたの家族構成を選択してください。	単一
問 5.(1) 転居前のあなたの世帯の人数を記入してください。	自由
問 5.(2) 転居後(予定)のあなたの世帯の人数を記入してください。	自由
問 6.(1) あなたのご出身の(生まれ育った)地域について、都道府県・市区町村の名称をご記入ください。	自由
問 6.(2) あなたが転居する前にお住まいだった地域について、都道府県・市区町村の名称をご記入ください。	自由
問 6.(3) あなたが転居後にお住まいの地域について、都道府県・市区町村の名称をご記入ください。	自由
問 7. あなたは、Uターン、Iターン、Jターンのいずれかに該当しますか。	単一
問 8.(1) 転居前のご職業に該当する番号を選択してください。	単一
問 8.(1) SQ ご職業が複数の場合は本業以外の職業に該当する番号を記入してください。	複数
問 8-1. 【問 8(1) で「1～13」のいずれかに○をつけた人のみ】 転居前のご職業(複数の場合は本業)の就業形態を選択してください。	単一
問 8.(2) 転居後のご職業(ご職業として予定されているもの)に該当する番号を選択してください。	単一
問 8.(2) SQ ご職業が複数の場合は本業以外の職業に該当する番号を記入してください。	複数
問 8-2. 【問 8(2) で「1～13」のいずれかに○をつけた人のみ】 転居後のご職業(複数の場合は本業)の就業形態を選択してください。	単一
問 9. 新しくお住まいの地域に転居される際、地域の魅力や農山漁村地域(田舎暮らし)への関心が、転居の動機となったり、地域の選択に影響したとお考えですか。	単一
問 9-1. 【問 9 で「1」に○をつけた人のみ】 現在お住まいの地域に移住したのはなぜですか。	複数
問 9-2. 【問 9 で「1」に○をつけた人のみ】 以下の行政施策のうち、現在お住まいの地域に移住される際に利用したもの(または利用される予定のもの)は何ですか。	複数
問 9-3. 【問 9 で「1」に○をつけた人のみ】 移住する際、重視した条件は何ですか。	複数
問 9-4. 【問 9-3 で「1～19」に○をつけた人のみ】 その中で、最も重視したことは何ですか。	単一
問 10. お住まいの地域に転居されたのは、どのようなタイミングでしたか。	単一
問 11. 現在お住まいの地域に転居される前から当該地域と交流や繋がりはありましたか。	単一
問 11-1. 【問 11 で「1」に○をつけた人のみ】 どのような交流や繋がりがありましたか。	複数
問 12. 今後、他の地域に転居する可能性について教えてください。	単一
問 12-1. 【問 12 で「1」又は「2」に○をつけた人のみ】 その理由やお考えの転居先地域などを教えてください。	自由
問 13. 最後に、ご自身の体験を踏まえ、都市部から農山漁村地域への移住者を増やすために必要だと思う支援や有効だと思う取組などがあれば、ご記入ください。	自由

※「都市部」の定義について

回答者の出身地・前住地・現住地(問6)の集計における「都市部」とは、三大都市圏及び大都市(11都府県+20政令市及び東京都特別区、国勢調査集計に同じ)のうち全域過疎及びみなし過疎を除いた地域であり、三大都市圏及び大都市にある一部過疎市町村については、当該市町村の全域を都市部に含めている。ただし、出身地・前住地の都道府県が三大都市圏でも市町村名が不明の場合は「都市部」には含めていない。

2-2. 調査結果

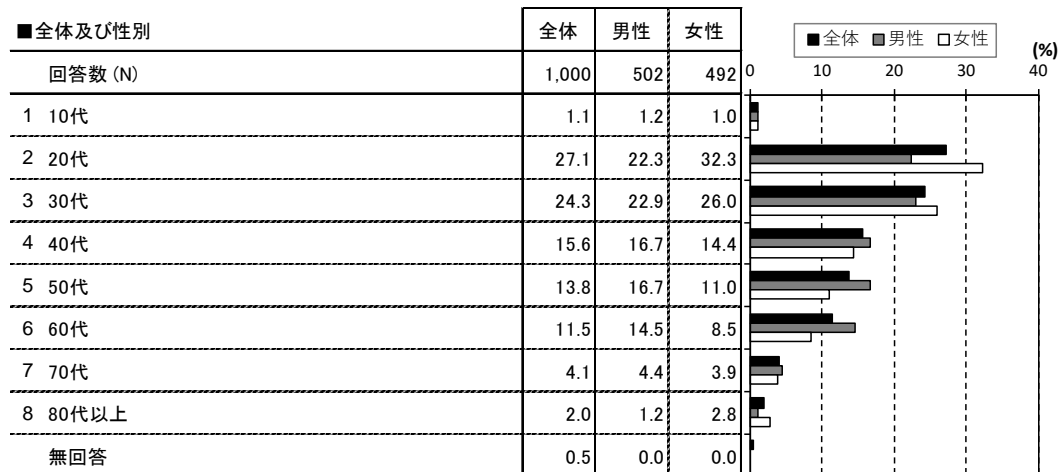
(1) 回答者属性

①性別・年齢

問1. あなたの性別を選択してください。

問2. あなたの年齢を選択してください。

▶ 回答者は男女ほぼ同数であり、20代から40代が中心となっている。

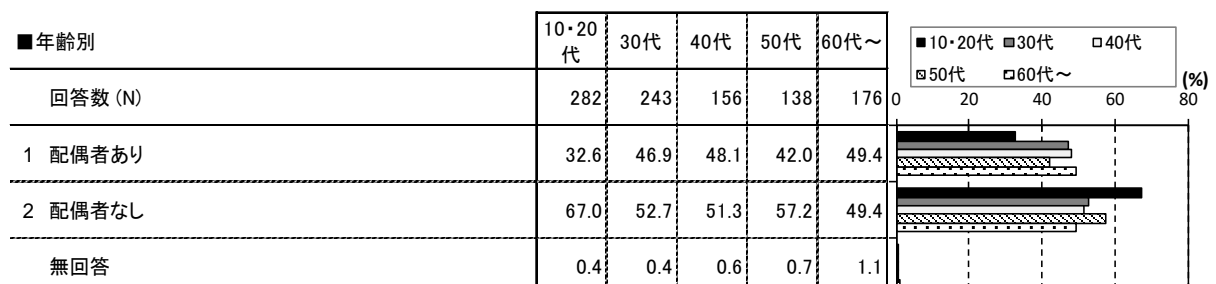


②配偶者の有無

問3. あなたに配偶者はいますか。有無を選択してください。

▶ 男女とも配偶者がいない人の方が多く、回答者の56%以上を占めている。

▶ 年齢別で見ると、いずれの年齢も配偶者がいない人の割合の方が高い。

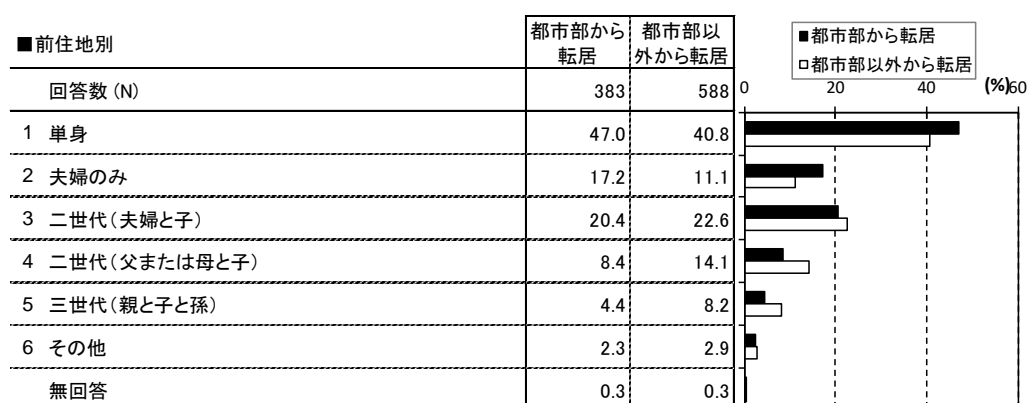
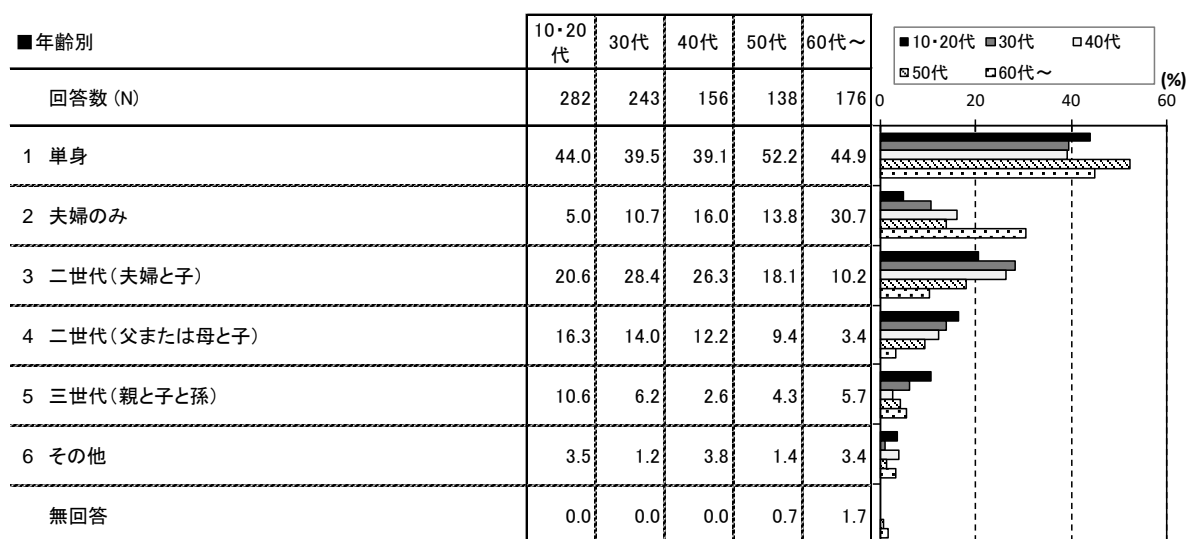
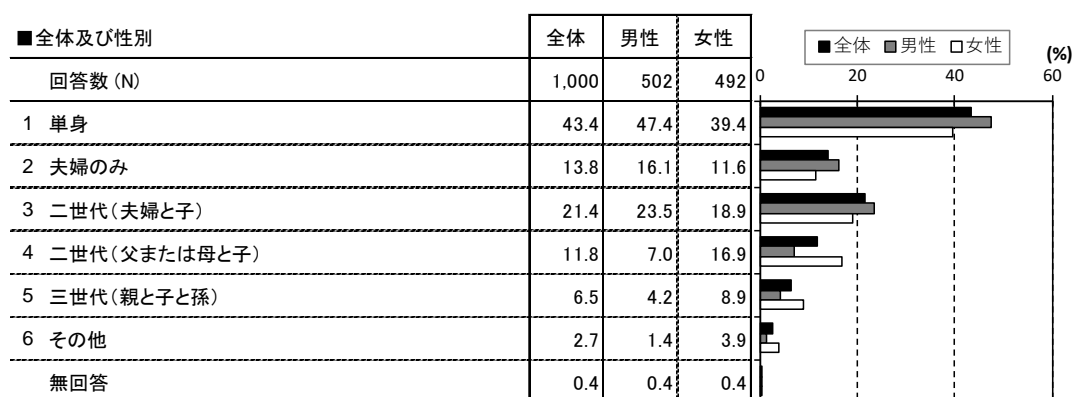


(2) 転居前後の家族構成や居住地、仕事等

① 転居前後の家族構成

問4.(1) 転居前のあなたの家族構成を選択してください。(○はひとつ)

- ▶ 転居前の家族構成は、全体では「単身」が43.4%で最も多く、次いで「二世代(夫婦と子)」が21.4%、「夫婦のみ」が13.8%となっている。男性は「単身」が47.4%であるが、女性では「単身」は40%に満たず、「二世代(父または母と子)」の割合が比較的高くなっている。
- ▶ 年齢別で見ると、いずれも「単身」の割合が最も高いが、30代と40代は「二世代(夫婦と子)」の割合が他の年齢より高く、60代以上では「夫婦のみ」が約30%を占めている。
- ▶ 前住地別で見ると、「単身」と「夫婦のみ」の割合は都市部からの転居者の方が高くなっている。



問4.(2) 転居後(予定)のあなたの家族構成を選択してください。(○はひとつ)

- ▶ 転居前の家族構成と転居後の家族構成をクロス集計すると、転居前は「単身」であった移住者の54.4%は転居後も「単身」で、16.8%は「二世世代(父または母と子)」となっている。
- ▶ 転居前は「二世世代(父または母と子)」であった移住者の43.2%が転居後は「単身」となっており、転居前は「三世世代(親と子と孫)」であった移住者の33.8%も、転居後、「単身」となっている。

■転居前の家族構成別

※転居前の家族構成ごとに転居後の家族構成で最も高い割合に網掛け

転居後	転居前(N)							無回答
	単身	夫婦のみ	二世世代(夫婦と子)	二世世代(父または母と子)	三世世代(親と子と孫)	その他		
単身	54.4	13.8	24.8	43.2	33.8	18.5	41.7	
夫婦のみ	6.5	53.6	10.3	17.8	10.8	11.1	33.3	
二世世代(夫婦と子)	7.4	4.3	35.5	5.1	20.0	14.8	8.3	
二世世代(父または母と子)	16.8	13.0	10.3	21.2	16.9	14.8	4.2	
三世世代(親と子と孫)	6.7	4.3	14.5	5.9	10.8	3.7	0.0	
その他	6.0	5.1	3.7	5.9	7.7	37.0	0.0	
無回答	2.3	5.8	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	

- ▶ 年齢別で転居前後の家族構成の割合を比較すると、40代のみ転居後の方が「単身」の割合が高くなっている。また、「三世世代(親と子と孫)」の割合は40代までは転居後の方が高く、「二世世代(父または母と子)」の割合は50代以上で転居後の方が大幅に高くなっている。
- ▶ 転居前後で割合が10ポイント以上変化している部分をみると、10・20代で「単身」の割合が転居後に大きく縮小し、「夫婦のみ」の割合が拡大している。また50代で「二世世代(夫婦と子)」の割合が転居後に大きく縮小し、「二世世代(父または母と子)」の割合が拡大している。

■年齢別

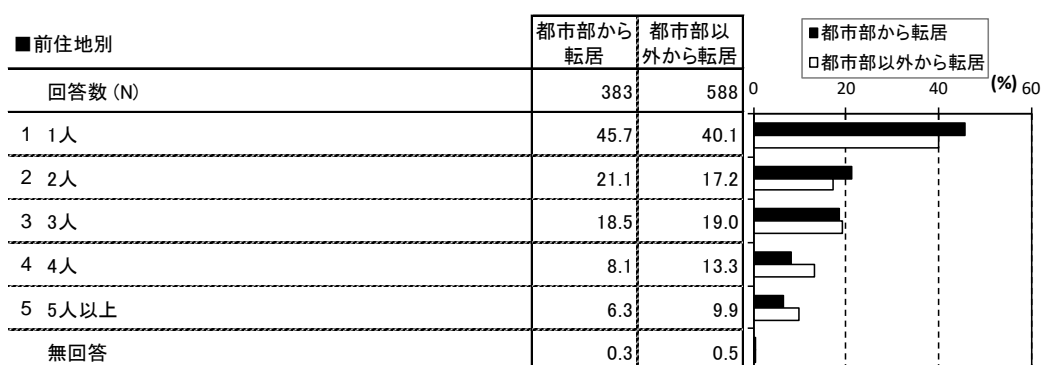
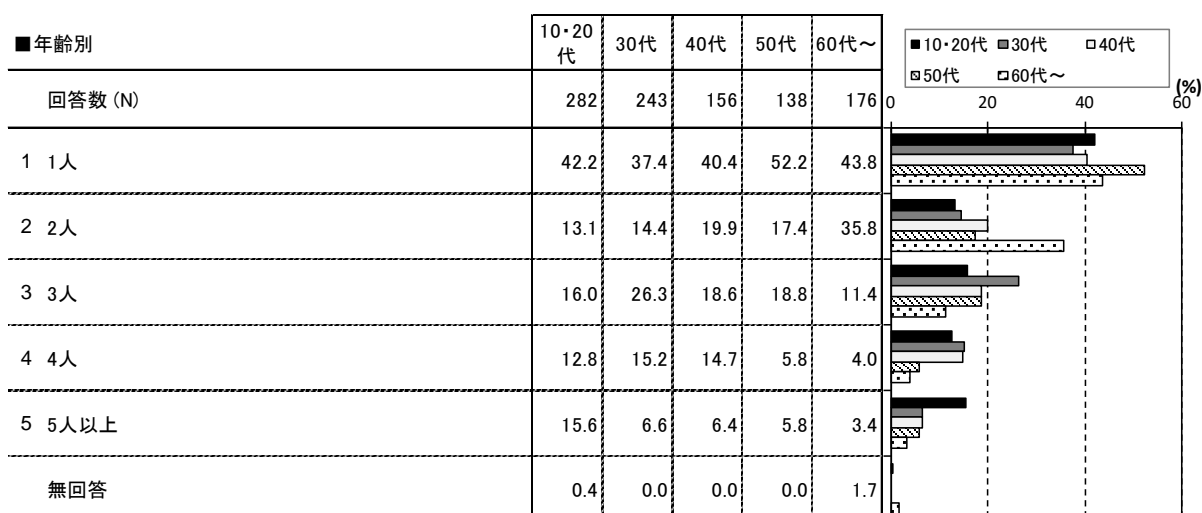
※転居前後で割合が10%以上高い方に網掛け

	10・20代		30代		40代		50代		60代～	
	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後
単身	44.0	31.9	39.5	35.8	39.1	40.4	52.2	49.3	44.9	43.2
夫婦のみ	5.0	15.2	10.7	11.9	16.0	16.0	13.8	10.9	30.7	25.0
二世世代(夫婦と子)	20.6	16.3	28.4	19.3	26.3	17.9	18.1	8.0	10.2	2.3
二世世代(父または母と子)	16.3	14.2	14.0	16.0	12.2	14.7	9.4	21.7	3.4	11.9
三世世代(親と子と孫)	10.6	13.5	6.2	11.1	2.6	5.1	4.3	2.2	5.7	2.8
その他	3.5	7.8	1.2	4.5	3.8	5.1	1.4	5.1	3.4	7.4
無回答	0.0	1.1	0.0	1.2	0.0	0.6	0.7	2.9	1.7	7.4

②転居前後の世帯人数

問5.(1) 転居前のあなたの世帯の人数を記入してください。

- ▶ 転居前の世帯人数は「1人」が42.4%を占め、「2人」と「3人」が約19%となっている。
- ▶ 年齢別で見ると、いずれも「1人」の割合が最も高いほか、60代以上では「2人」が35.8%、30代では「3人」が26.3%と比較的高い割合となっている。
- ▶ 前住地別で見ると、都市部からの転居者の方が転居前の世帯人員が「1人」及び「2人」の割合が高い。



問5.2) 転居後(予定)のあなたの世帯の人数を記入してください。

- ▶ 転居前の世帯人数と転居後の世帯人数をクロス集計すると、転居前の世帯人数が「1人」の移住者の51.2%は転居後も「1人」で、転居前の世帯人数が「2人」の移住者の50.5%は転居後も「2人」となっている。
- ▶ 一方、転居前の世帯人数が「3人」以上の移住者では、転居後は「1人」の割合が最も高く、特に転居前の世帯人数が「3人」又は「4人」の移住者は30%超が転居後は「1人」となっている。

■転居前の家族構成別 ※転居前の世帯人数ごとに転居後の世帯人数で最も高い割合に網掛け

転居後	転居前(N)	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
	1人	51.2	18.9	32.6	31.5	27.4	25.0
2人	15.6	50.5	20.9	15.3	23.8	25.0	
3人	15.8	14.2	30.5	10.8	15.5	0.0	
4人	7.8	10.5	9.6	27.9	13.1	0.0	
5人以上	9.0	5.3	6.4	11.7	20.2	0.0	
無回答	0.7	0.5	0.0	2.7	0.0	50.0	

- ▶ 年齢別で転居前後の世帯人数の割合を比較すると、「1人」の割合はいずれの年齢でも転居後の方が低くなっており、「2人」の割合は、60代以上を除く年齢で転居後の方が高くなっている。

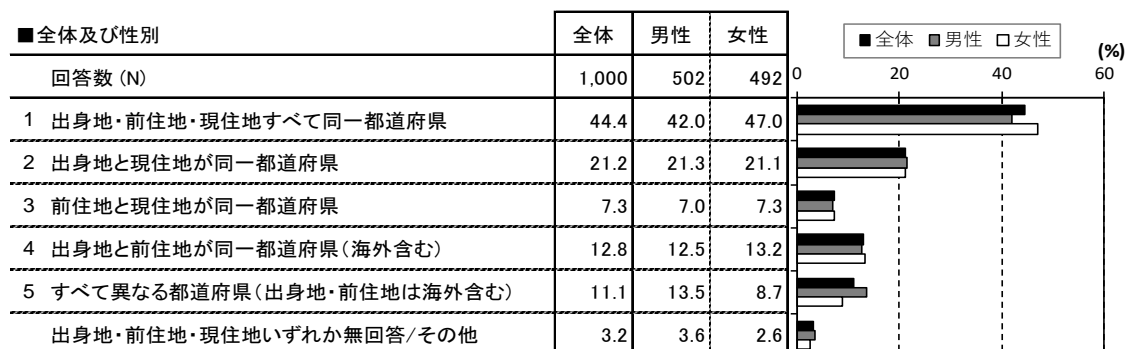
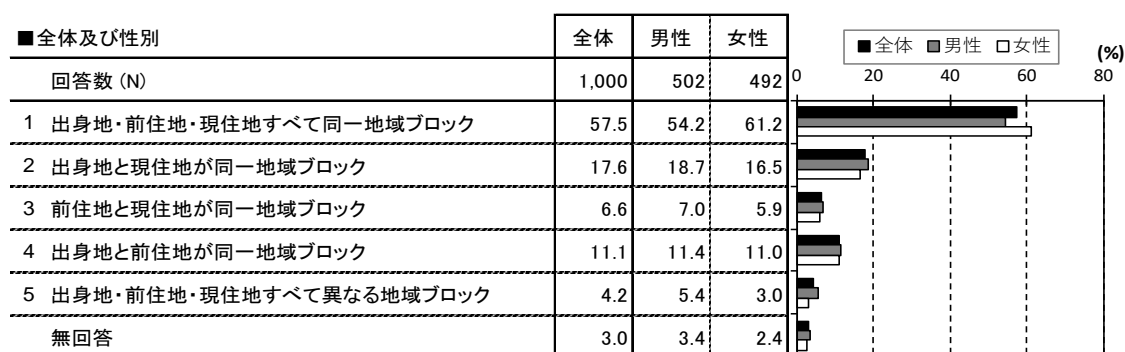
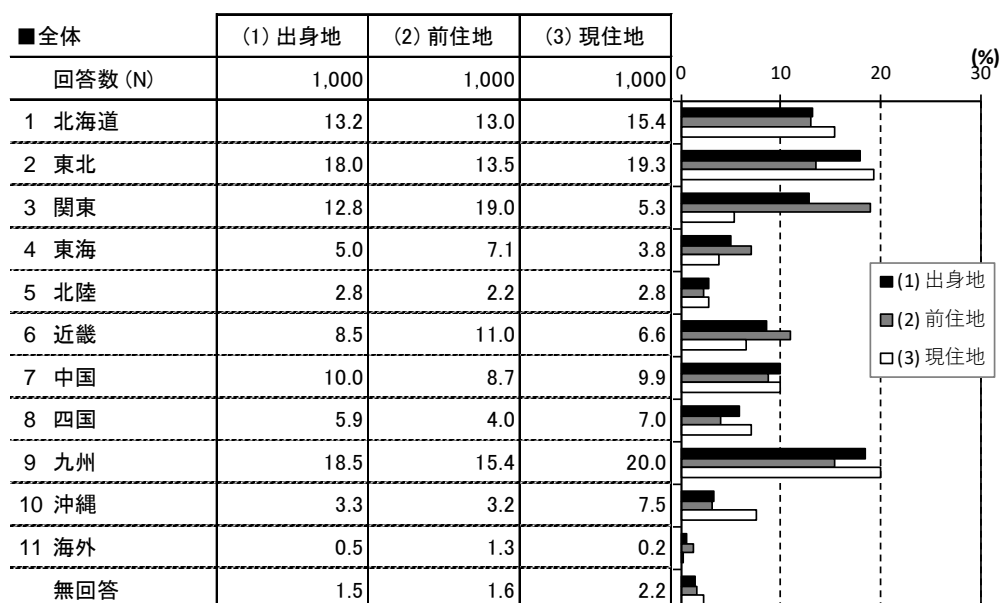
■年齢別 ※転居前後で割合が5%以上高い方に網掛け

	10・20代		30代		40代		50代		60代～	
	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後
1人	42.2	32.3	37.4	33.3	40.4	39.1	52.2	47.8	43.8	40.9
2人	13.1	20.9	14.4	20.6	19.9	24.4	17.4	21.7	35.8	34.7
3人	16.0	18.4	26.3	18.9	18.6	17.9	18.8	17.4	11.4	13.6
4人	12.8	12.4	15.2	16.0	14.7	10.9	5.8	10.1	4.0	4.5
5人以上	15.6	15.6	6.6	10.7	6.4	7.7	5.8	2.2	3.4	2.8
無回答	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.7	1.7	3.4

③出身地・前住地及び現住地

問6.(1) あなたのご出身の(生まれ育った)地域について、都道府県・市区町村の名称をご記入ください。
 問6.(2) あなたが転居する前にお住まいだった地域について、都道府県・市区町村の名称をご記入ください。
 問6.(3) あなたが転居後にお住まいの地域について、都道府県・市区町村の名称をご記入ください。

- ▶ 回答者の(1)出身地、(2)前住地、(3)現住地を地域ブロック別で集計すると、出身地及び現住地は九州、東北が多く、前住地は関東が多い。
- ▶ 回答者ごとに出身地、前住地、現住地の地域ブロックの変遷をみると、「すべて同一地域ブロック」が57.5%で最も多く、次いで「出身地と現住地が同一地域ブロック」が17.6%となっている。
- ▶ 回答者ごとに出身地、前住地、現住地の都道府県の変遷をみると、「すべて同一都道府県」が44.4%で最も多く、次いで「出身地と現住地が同一都道府県」が21.2%となっている。

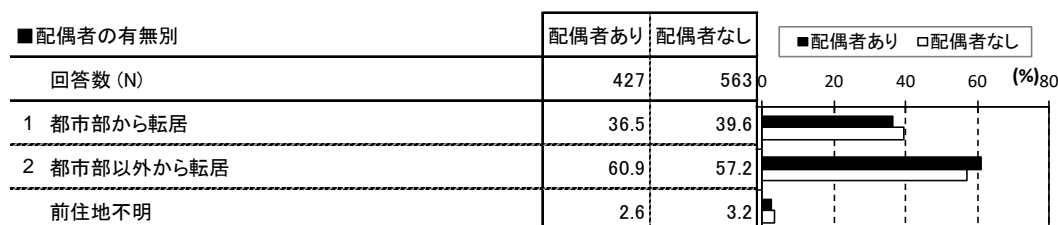
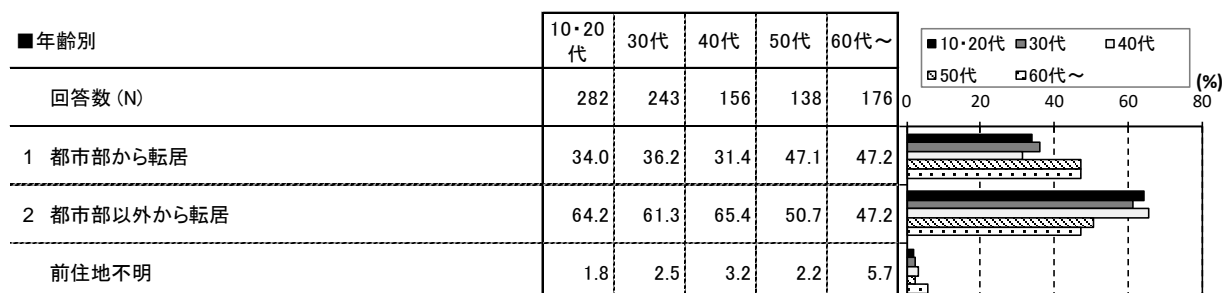


- ▶ 回答者ごとに出身地、前住地、現住地の市町村の変遷をみると、「出身地と現住地が同一市町村」が33.3%で最も多く、次いで「すべて異なる市町村」が30.8%となっている。



■前住地別にみた移住者の属性

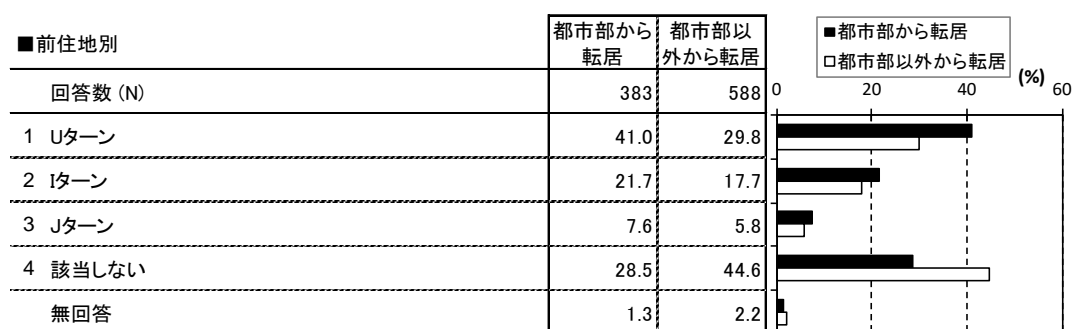
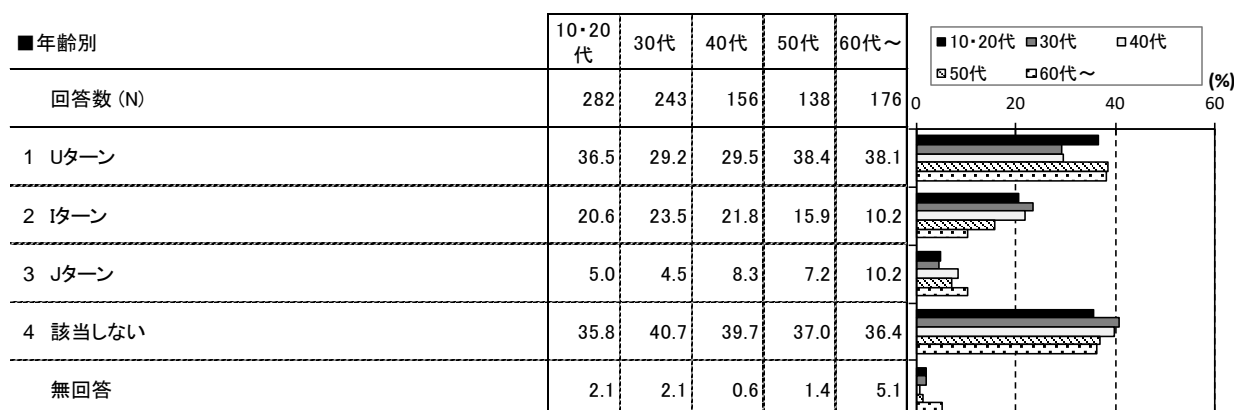
- ▶ 前住地を属性別でみると、性別では男女とも都市部以外から転居した人の割合の方が高い。
- ▶ 年齢別でみると、40代までは都市部以外から転居した人の割合が60%を超えているが、50代と60代以上は都市部から転居した人の割合がいずれも約47%と、若い世代よりも高くなっている。
- ▶ 配偶者の有無別でみると、配偶者がいない人の方が、都市部から転居の割合がやや高い。



④UIJターンの別

問7. あなたは、Uターン、Iターン、Jターンのいずれかに該当しますか。(〇はひとつ)

- ▶ UIJターンの別を聞いたところ、「該当しない」が最も高い割合となり、それ以外では「Uターン」が34.3%で最も多い。
- ▶ 年齢別でみると、「Uターン」の割合は、10・20代及び50代以上で35%を超え、比較的高くなっている。「Iターン」の割合は40代までの年齢では20%以上を占めており、30代が最も高い割合となっている。「Jターン」の割合は60代以上で10.2%と他の年齢と比べて高くなっている。
- ▶ 前住地別でみると、都市部からの転居者の41.0%は「Uターン」で、「Iターン」は21.7%を占める。



※ Uターン：生まれ育った故郷から進学や就職を期に都会へ移住した後、再び生まれ育った故郷に移住すること

Iターン：生まれ育った故郷から進学や就職を期に故郷にはない要素を求めて、故郷とは別の地域に移住すること

Jターン：生まれ育った故郷から進学や就職を期に都会へ移住した後、故郷に近い地域に移住すること

⑤転居前後の職業

問8.(1) 転居前のあなたのご職業に該当する番号を選択してください。(本業としているもの1つに○)

問8.(2) 転居後のあなたのご職業(ご職業として予定されているもの)に該当する番号を選択してください。(本業としているもの1つに○)

- ▶ 職業をみると、転居前・転居後ともに「サービス業」が最も多い。なお、本業以外の職業を回答した移住者は10名であった。
- ▶ 多くの職業は転居前の方が割合が高いが、第1次産業の割合は転居後の方が高い。
- ▶ 年齢別でみると、「農業」の割合は30代以上で転居前より転居後の方が高い。また40代以外は「無職」の割合が転居後に高くなっており、特に60代以上では50%を超えている。

■全体及び性別

※転居前<転居後に網掛け

	全体		男性		女性	
	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後
農業	2.5	3.9	3.0	6.0	2.0	1.8
林業	0.2	0.7	0.2	1.4	0.2	0.0
漁業	0.3	0.5	0.4	1.0	0.2	0.0
鉱業	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0
建設業	5.7	4.5	10.2	8.0	1.2	1.0
製造業	11.4	7.9	16.1	11.2	6.3	4.3
電気・ガス・熱供給・水道業	1.5	1.1	2.8	2.0	0.2	0.2
運輸・通信業	4.2	2.7	6.8	4.6	1.6	0.8
卸売・小売業	6.0	4.2	5.8	4.2	6.3	4.3
金融・保険業	2.6	1.8	2.4	2.0	2.8	1.6
不動産業	0.8	0.2	0.6	0.2	1.0	0.2
サービス業	35.4	27.9	25.9	20.5	45.3	35.6
公務	8.9	9.1	9.6	9.6	8.1	8.5
学生	3.6	1.0	4.6	1.6	2.6	0.4
無職	14.4	17.0	9.0	14.1	19.7	20.1
未定	-	13.8	-	9.4	-	18.1
無回答	2.5	3.6	2.8	4.2	2.2	3.0

■年齢別

※転居前<転居後に網掛け

	10・20代		30代		40代		50代		60代～	
	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後
農業	3.9	3.2	2.5	4.5	3.8	5.1	0.7	4.3	0.6	2.8
林業	0.4	0.4	0.4	1.6	0.0	0.6	0.0	0.7	0.0	0.0
漁業	0.7	0.7	0.0	0.4	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.6
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	3.2	3.5	4.9	4.5	5.8	5.8	8.7	7.2	8.5	2.8
製造業	11.0	9.9	11.5	7.4	10.3	12.2	15.9	5.8	8.5	2.3
電気・ガス・熱供給・水道業	1.1	1.1	0.8	0.8	3.2	1.3	2.2	2.9	1.1	0.0
運輸・通信業	1.8	1.4	4.9	4.1	5.8	3.2	8.0	3.6	2.8	1.7
卸売・小売業	8.5	5.7	5.8	4.9	7.1	4.5	5.8	3.6	1.7	1.1
金融・保険業	3.5	2.8	2.5	1.6	4.5	2.6	1.4	1.4	0.6	0.0
不動産業	0.7	0.4	1.2	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6
サービス業	37.2	31.9	43.6	35.4	35.9	28.2	32.6	26.1	23.9	13.1
公務	6.7	11.3	10.7	11.5	10.9	10.3	9.4	5.1	7.4	4.0
学生	11.7	3.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0
無職	7.4	7.8	9.1	9.9	9.0	5.8	12.3	17.4	38.6	51.7
未定	-	14.2	-	9.9	-	18.6	-	17.4	-	10.8
無回答	2.1	2.1	1.6	2.9	2.6	1.9	2.2	3.6	4.5	8.5

問8-1. 【問8(1) で「1～13」のいずれかに○】転居前のご職業の就業形態を選択してください。(○はひとつ)

問8-2. 【問8(2) で「1～13」のいずれかに○】転居後のご職業の就業形態を選択してください。(○はひとつ)

- ▶ 就業形態をみると、転居前・転居後ともに「正規の職員・従業員」が最も多いが、その割合は転居後にやや下がっている。一方、「パート・アルバイト」、「会社などの役員」、「自営業主」、「家族従業者」の割合は転居後の方が高くなっている。
- ▶ 年齢別でみると、「パート・アルバイト」の割合は50代以外の年齢で転居後の方が高くなっており、「自営業主」の割合はすべての年齢で転居後の方が高くなっている。

■全体及び性別

※転居前<転居後に網掛け

	全体		男性		女性	
	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後
正規の職員・従業員	66.0	61.5	71.7	68.2	59.8	53.3
派遣社員	6.0	4.3	4.8	3.9	7.3	4.5
パート・アルバイト	14.6	16.7	6.2	5.9	24.0	30.0
会社などの役員	1.5	1.7	2.4	2.5	0.5	0.7
自営業主	5.4	6.2	7.6	8.7	3.0	3.1
家族従業者(家族が営む自営業に従事)	1.0	2.3	0.7	2.5	1.3	2.1
その他	3.9	3.9	4.3	4.5	3.5	3.1
未定	-	1.7	-	1.7	-	1.7
無回答	1.5	1.7	2.4	2.0	0.5	1.4

■年齢別

※転居前<転居後に網掛け

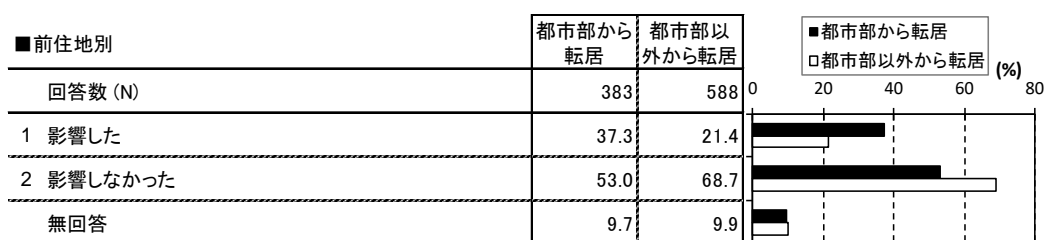
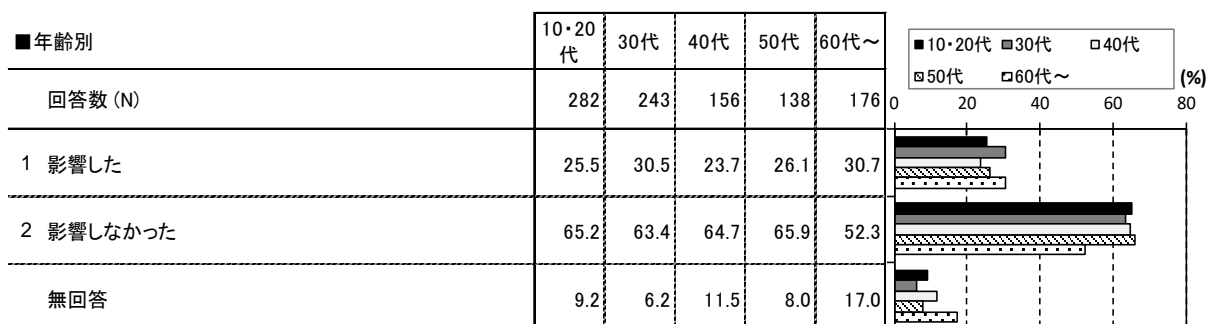
	10・20代		30代		40代		50代		60代～	
	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後	転居前	転居後
正規の職員・従業員	76.6	69.6	73.1	66.0	60.9	60.9	53.4	45.9	49.0	39.2
派遣社員	6.3	4.4	5.6	2.7	8.7	7.0	4.2	3.5	4.1	3.9
パート・アルバイト	14.0	17.6	12.5	17.6	10.9	12.2	20.3	16.5	19.4	21.6
会社などの役員	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	2.6	3.4	4.7	5.1	7.8
自営業主	1.4	2.5	2.8	4.8	7.2	8.7	11.0	11.8	11.2	11.8
家族従業者(家族が営む自営業に従事)	0.0	1.0	0.9	1.6	2.9	1.7	0.8	7.1	1.0	3.9
その他	1.4	2.0	4.6	4.8	5.1	4.3	5.9	7.1	4.1	2.0
未定	-	2.5	-	0.5	-	0.0	-	2.4	-	5.9
無回答	0.5	0.5	0.5	2.1	2.2	2.6	0.8	1.2	6.1	3.9

(3) 転居理由や転居先の決定理由、移住の際に利用した行政施策等

①地域の魅力や農山漁村地域（田舎暮らし）への関心の有無

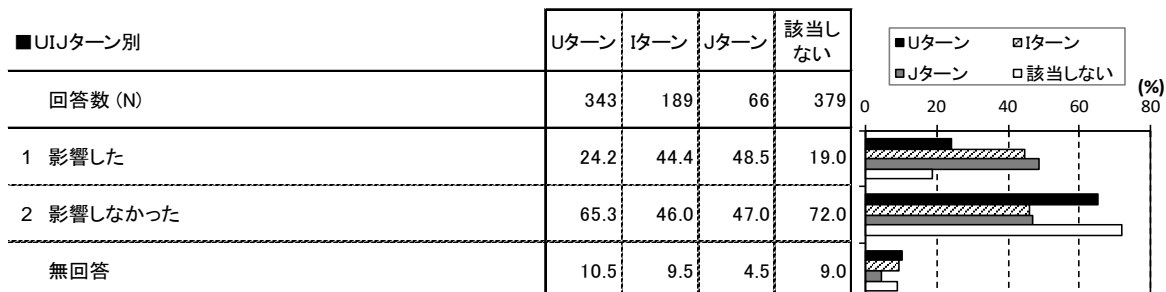
問9. 新しくお住まいの地域に転居される際、地域の魅力や農山漁村地域(田舎暮らし)への関心が、転居の動機となったり、地域の選択に影響したとお考えですか。(〇はひとつ)

- ▶ 過疎地域への転居や地域の選択に、地域の魅力や農山漁村地域への関心が影響したと回答した人は全体の27.4%で、男性の方が影響したと回答した割合がやや高い。
- ▶ 年齢別でみると、地域の魅力や農山漁村地域への関心が影響したと回答した人は、60代以上が30.7%で最も高く、次いで30代が30.5%となっている。
- ▶ 前住地別でみると、都市部からの転居者の方が、地域の魅力や農山漁村地域への関心が影響したと回答した人の割合が高い。
- ▶ 現住地の地域ブロック別でみると、地域の魅力や農山漁村地域への関心が影響したと回答した人の割合が最も高いのは関東で41.5%であり、次いで沖縄が41.3%、さらに東海、北海道、四国が30%超となっている。



■現住地の地域ブロック別	北海道	東北	関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
回答数(N)	154	193	53	38	28	66	99	70	200	75
1 影響した	31.2	22.3	41.5	36.8	21.4	22.7	21.2	30.0	24.5	41.3
2 影響しなかった	64.3	66.3	47.2	55.3	78.6	68.2	68.7	62.9	62.0	46.7
無回答	4.5	11.4	11.3	7.9	0.0	9.1	10.1	7.1	13.5	12.0

- ▶ UIJ ターン別でみると、I ターン者の 44.4%、J ターン者の 48.5%が、地域の魅力や農山漁村地域への関心が転居に影響したと回答している。
- ▶ 過疎地域に転居したタイミング（問 10、後述）別でみると、地域の魅力や農山漁村地域への関心が転居に影響したと回答した人の割合は、「転職・転業」のタイミングで転居した人で最も高く、44.4%である。



■ 過疎地域への転居のタイミング別

	就職・就業	転職・転業	転勤	退職	入学・進学	結婚・離婚	住宅の事情 (新築、借家 への移転)	親や子との 同居・近居	家族・親族 の介護	家族の移動 に伴って移 動
回答数 (N)	64	142	102	106	12	161	96	76	46	23
1 影響した	39.1	44.4	12.7	32.1	33.3	16.8	27.1	25.0	17.4	13.0
2 影響しなかった	59.4	47.2	80.4	59.4	58.3	72.0	61.5	65.8	67.4	78.3
無回答	1.6	8.5	6.9	8.5	8.3	11.2	11.5	9.2	15.2	8.7

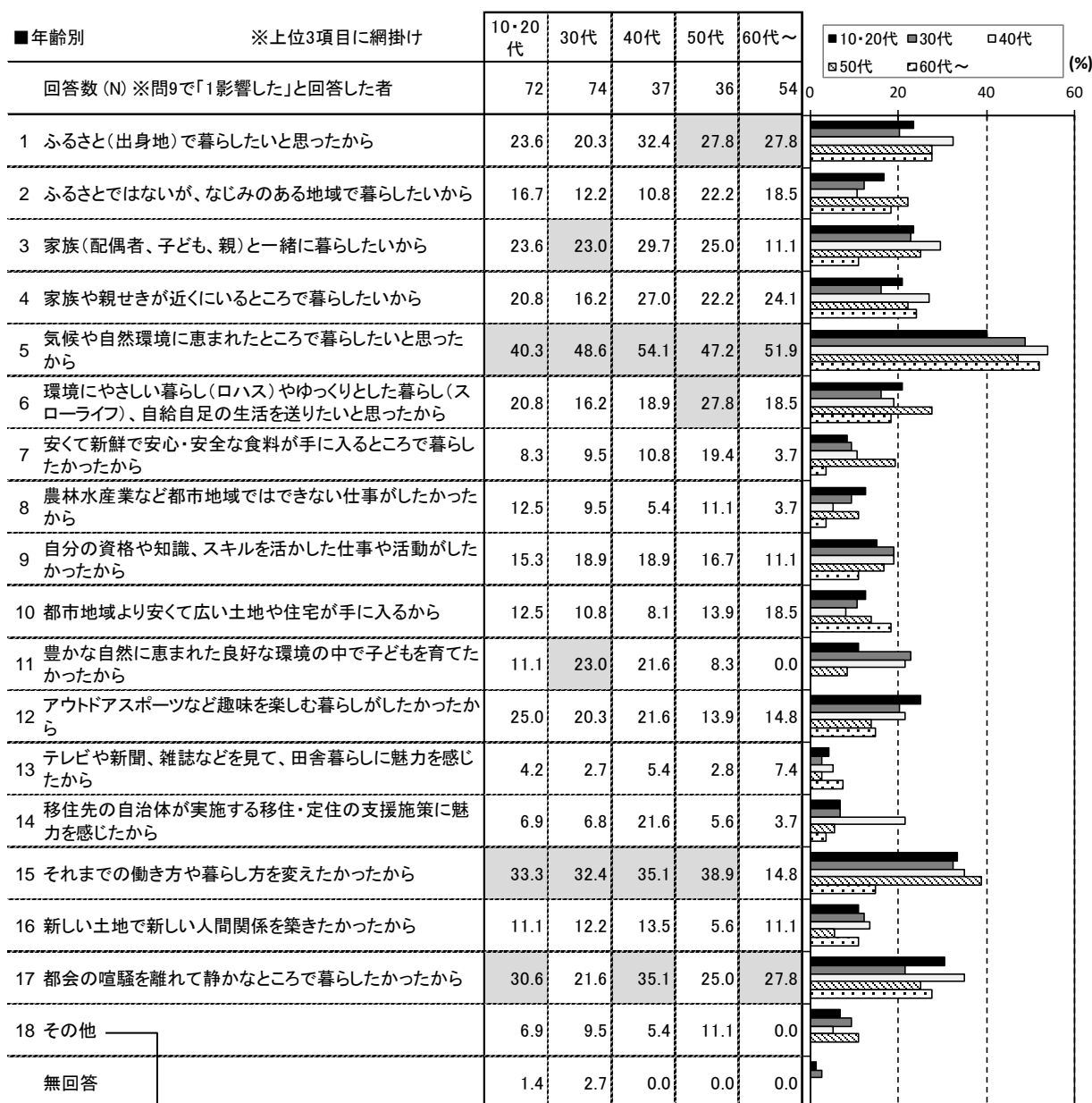
②地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人の移住理由

問9-1. 【問9で「1」に○をつけた人のみ】現在お住まいの地域に移住したのはなぜですか。(複数選択可)

- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人の移住理由をみると、全体では「気候や自然環境に恵まれたところで暮らしたいと思ったから」が47.4%で最も多く、次いで、「それまでの働き方や暮らし方を変えたかったから」が30.3%、「都会の喧騒を離れて静かなところで暮らしたかったから」が27.4%で続いている。
- ▶ 性別でみると、男女とも第1位は「気候や自然環境に恵まれたところで暮らしたいと思ったから」で同じであるが、第2位は、男性では「ふるさと（出身地）で暮らしたいと思ったから」、女性では「それまでの働き方や暮らし方を変えたいと思ったから」となっている。



- ▶ 年齢別でみると、いずれの年齢も第1位は「気候や自然環境に恵まれたところで暮らしたいと思ったから」であり、特に40代と60代以上で50%を超えている。
- ▶ 第2位は、50代までは「それまでの働き方や暮らし方を変えたいと思ったから」、60代以上では「ふるさと（出身地）で暮らしたいと思ったから」と「都会の喧騒を離れて静かなところで暮らしたかったから」となっている。
- ▶ 「ふるさと（出身地）で暮らしたいと思ったから」は40代が特に高く、32.4%であった。

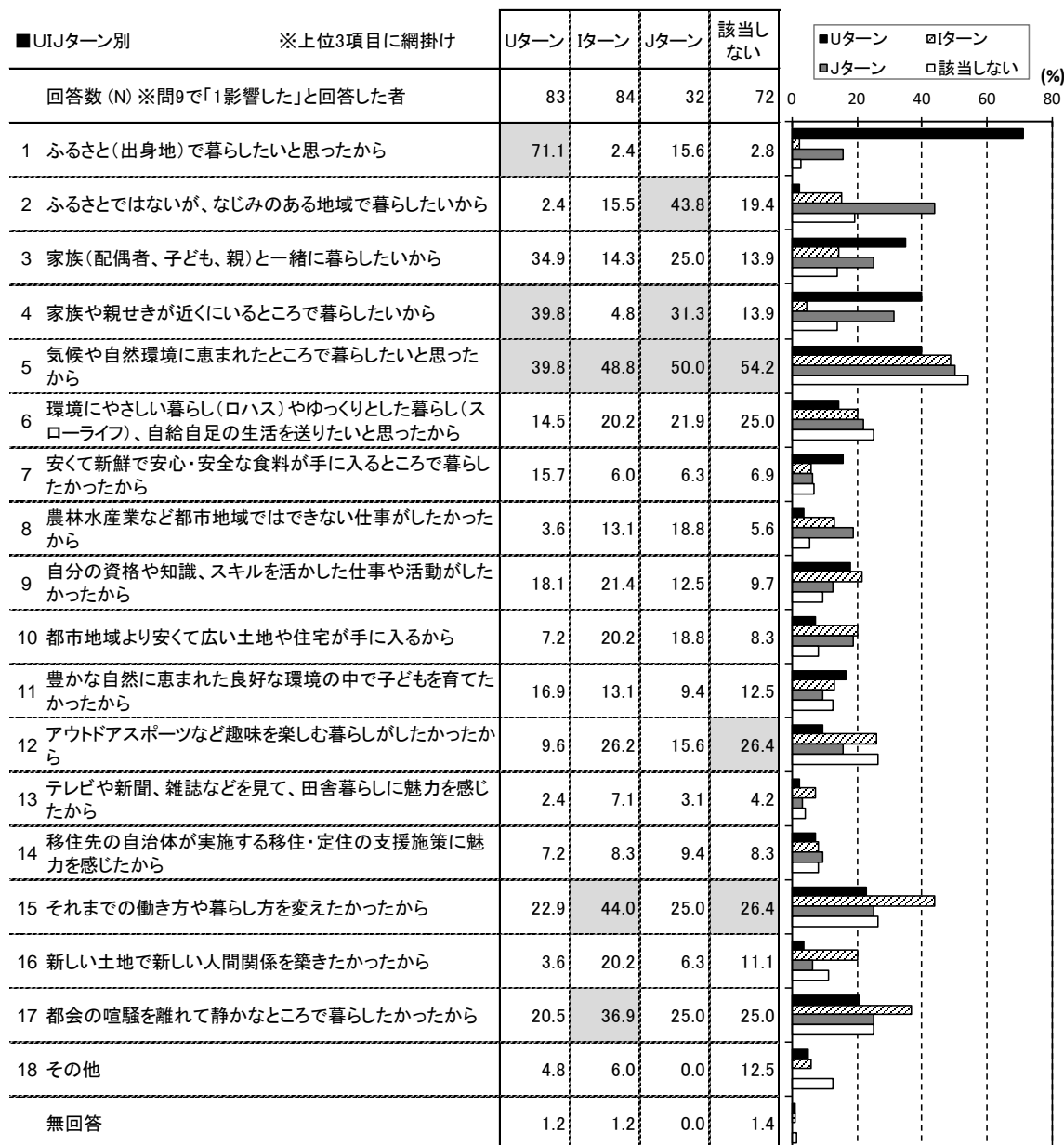


	10・20代	30代	40代	50代	60代～
仕事や家族の都合上	2.8	1.4	2.7	5.6	0.0
やりたい仕事があった・自己実現のため	1.4	4.1	0.0	0.0	0.0
もともと住みたかった	1.4	0.0	0.0	2.8	0.0
その他	1.4	2.7	0.0	2.8	0.0

- ▶ 前住地別でみると、地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した都市部からの移住者の 53.8%が「気候や自然環境に恵まれたところで暮らしたいと思ったから」を挙げている。
- ▶ また、「それまでの働き方や暮らし方を変えたかったから」や「都会の喧騒を離れて静かなところで暮らしたかったから」も都市部からの転居者の 35%超が挙げており、これらの上位3項目は特に都市部以外から転居した移住者との差が大きくなっている。



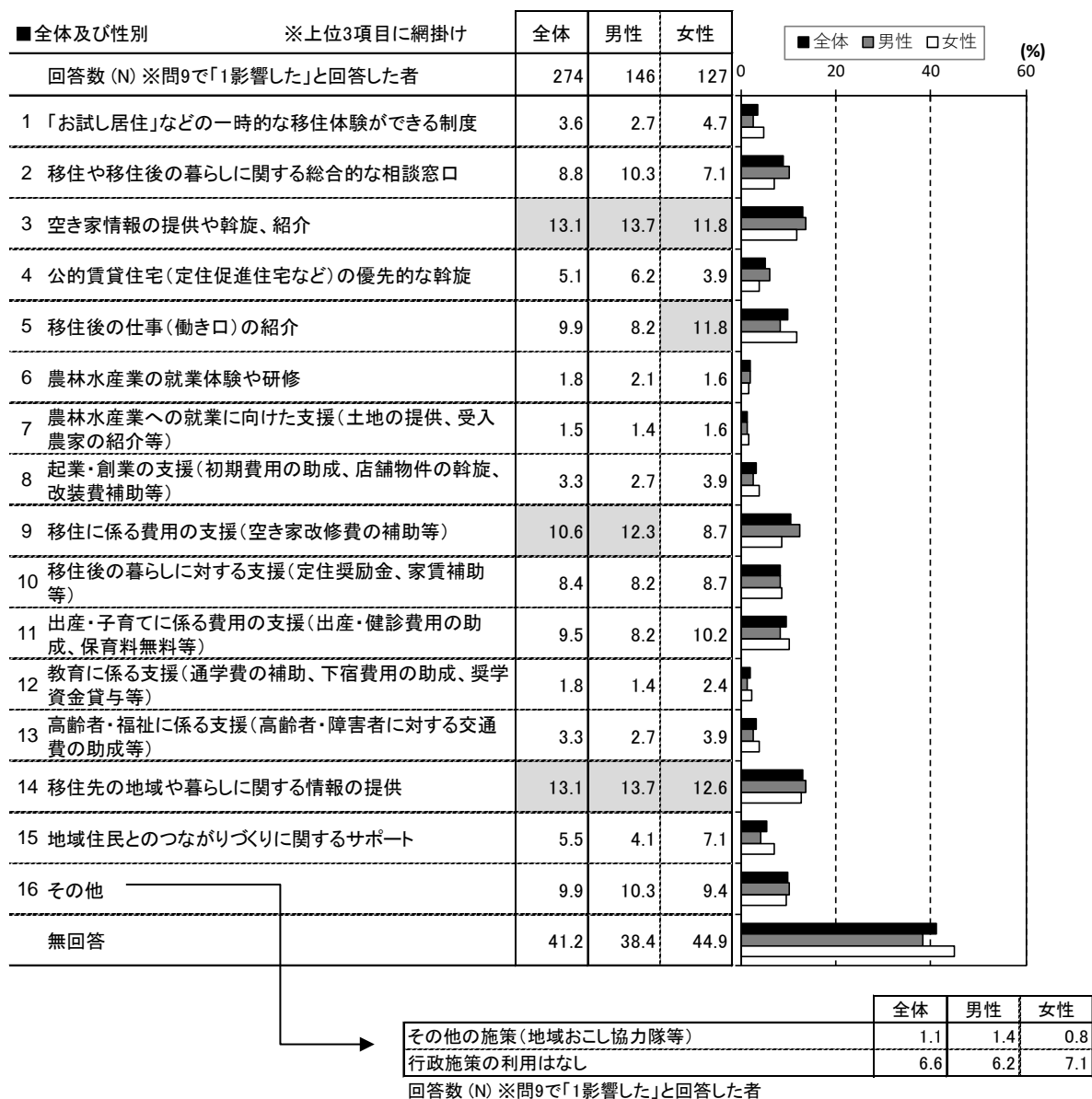
- ▶ UIJ ターン別でみると、U ターン者は「ふるさと（出身地）で暮らしたいと思ったから」が 71.1% と突出して高く、I ターン者は「それまでの働き方や暮らし方を変えたかったから」、「都会の喧騒を離れて静かなところで暮らしたかったから」、J ターン者は、「ふるさとではないが、なじみのある地域で暮らしたいから」の回答割合が高い。
- ▶ また、I ターン者の回答割合で相対的に高かったのは、「自分の資格や知識、スキルを活かした仕事や活動がしたかったから」（21.4%）、「アウトドアスポーツなど趣味を楽しむ暮らしがしたかったから」（26.2%）であり、2割を超えている



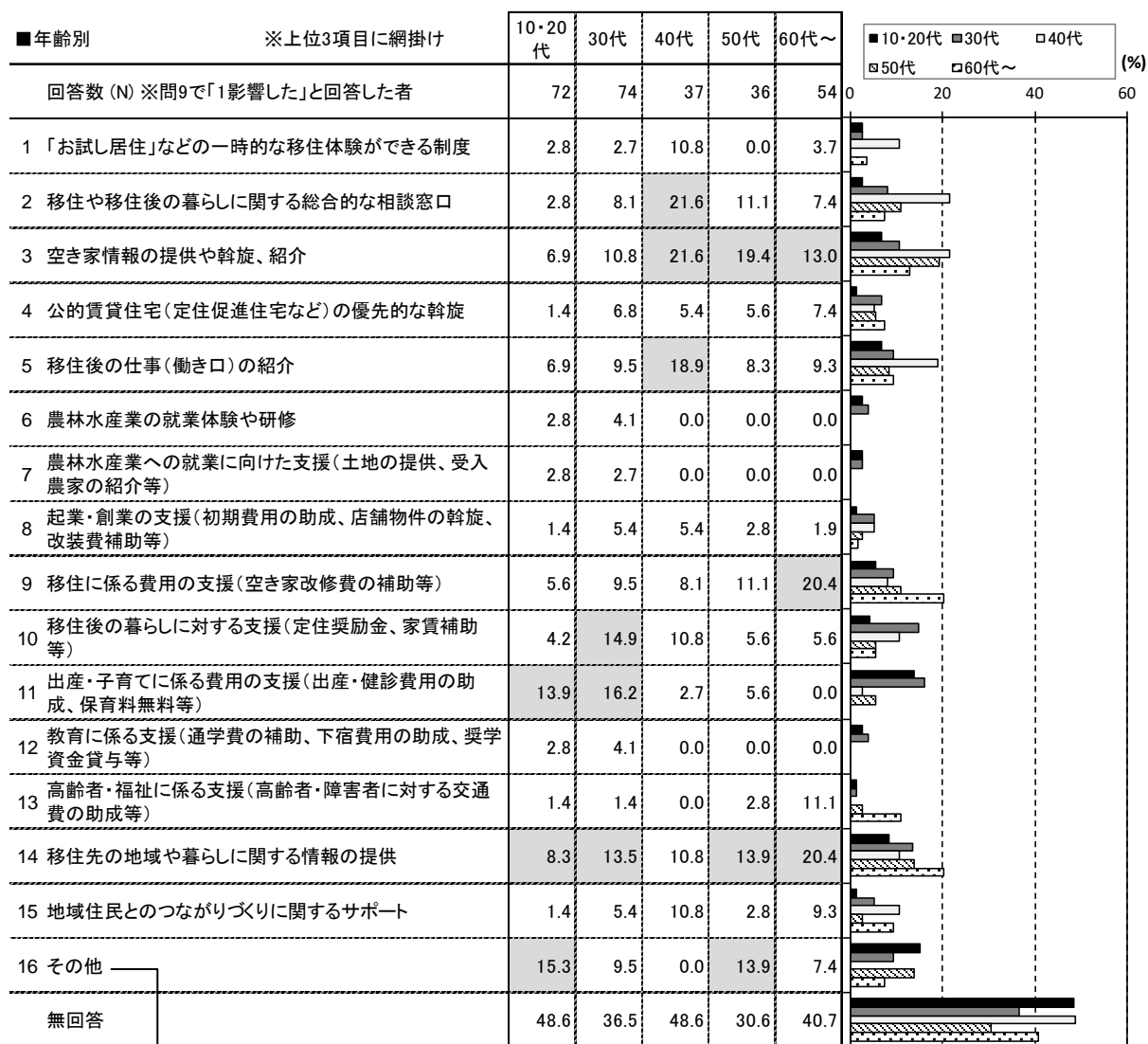
③地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が利用した行政施策

問9-2.【問9で「1」に○をつけた人のみ】以下の行政施策のうち、現在お住まいの地域に移住される際に利用した(または利用される予定のもの)は何ですか。(複数選択可)

- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が実際に現住地に移住する際に利用した行政施策をみると、無回答を除き、「空き家情報の提供や斡旋、紹介」及び「移住先の地域や暮らしに関する情報の提供」がともに 13.1%で最も多く、次いで「移住に係る費用の支援」が 10.6%である。
- ▶ 性別でみると、上位に挙げられている項目はほぼ共通しているが、住まいに関する施策を挙げた割合は男性の方がやや高く、仕事や出産・子育て・教育などに関する施策の割合は女性の方がやや高くなっている。



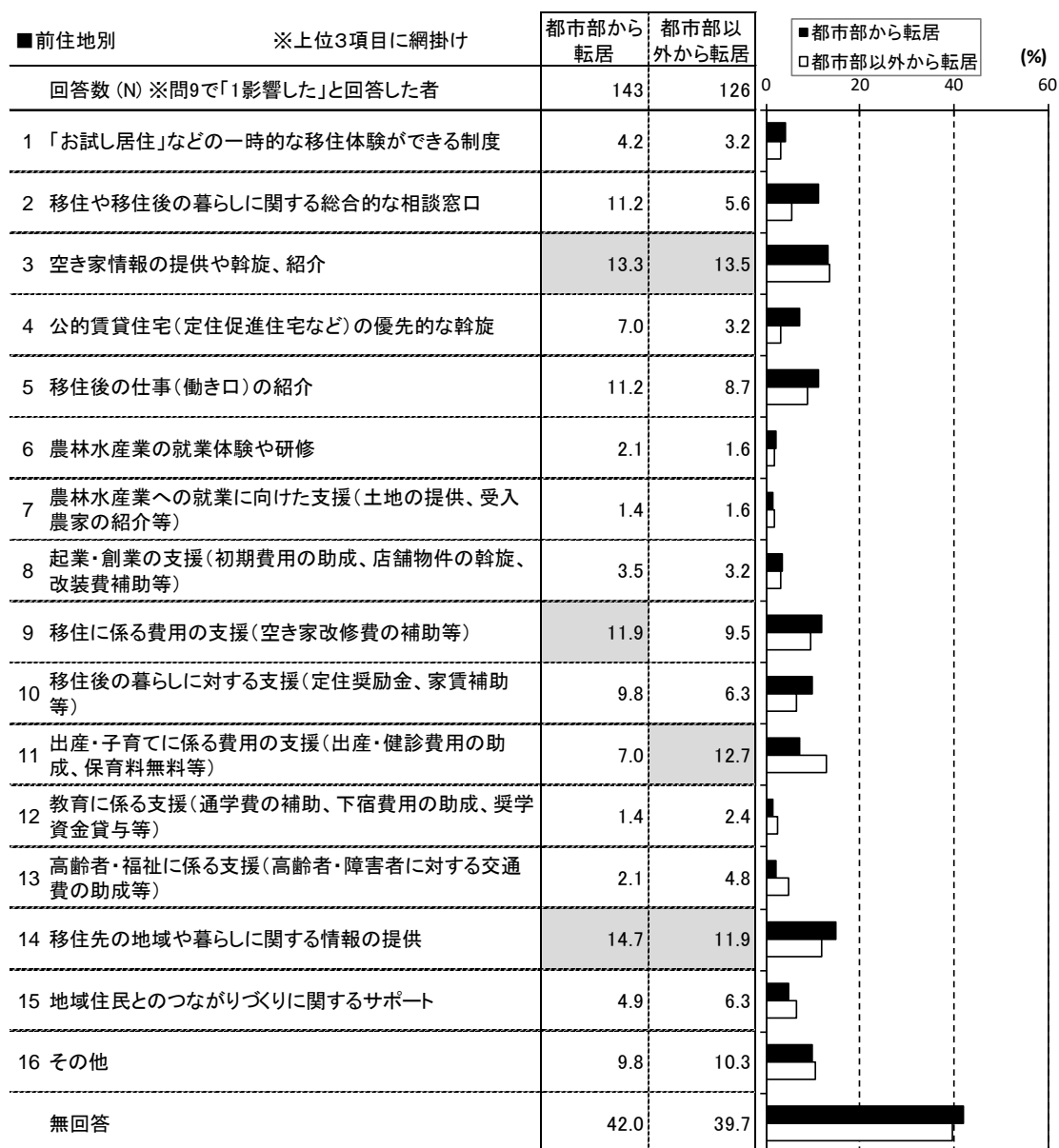
- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に利用した行政施策について、年齢別でみると、10・20代と30代は「出産・子育てに係る費用の支援」が15%前後で最も高くなっており、40代では「移住や移住後の暮らしに関する総合的な相談窓口」と「空き家情報の提供や斡旋、紹介」がいずれも21.6%で最も高い割合となっている。
- ▶ 50代では「空き家情報の提供や斡旋、紹介」が19.4%で最も高く、60代以上では「移住に係る費用の支援」と「移住先の地域や暮らしに関する情報の提供」がいずれも20.4%で最も高い割合となっている。



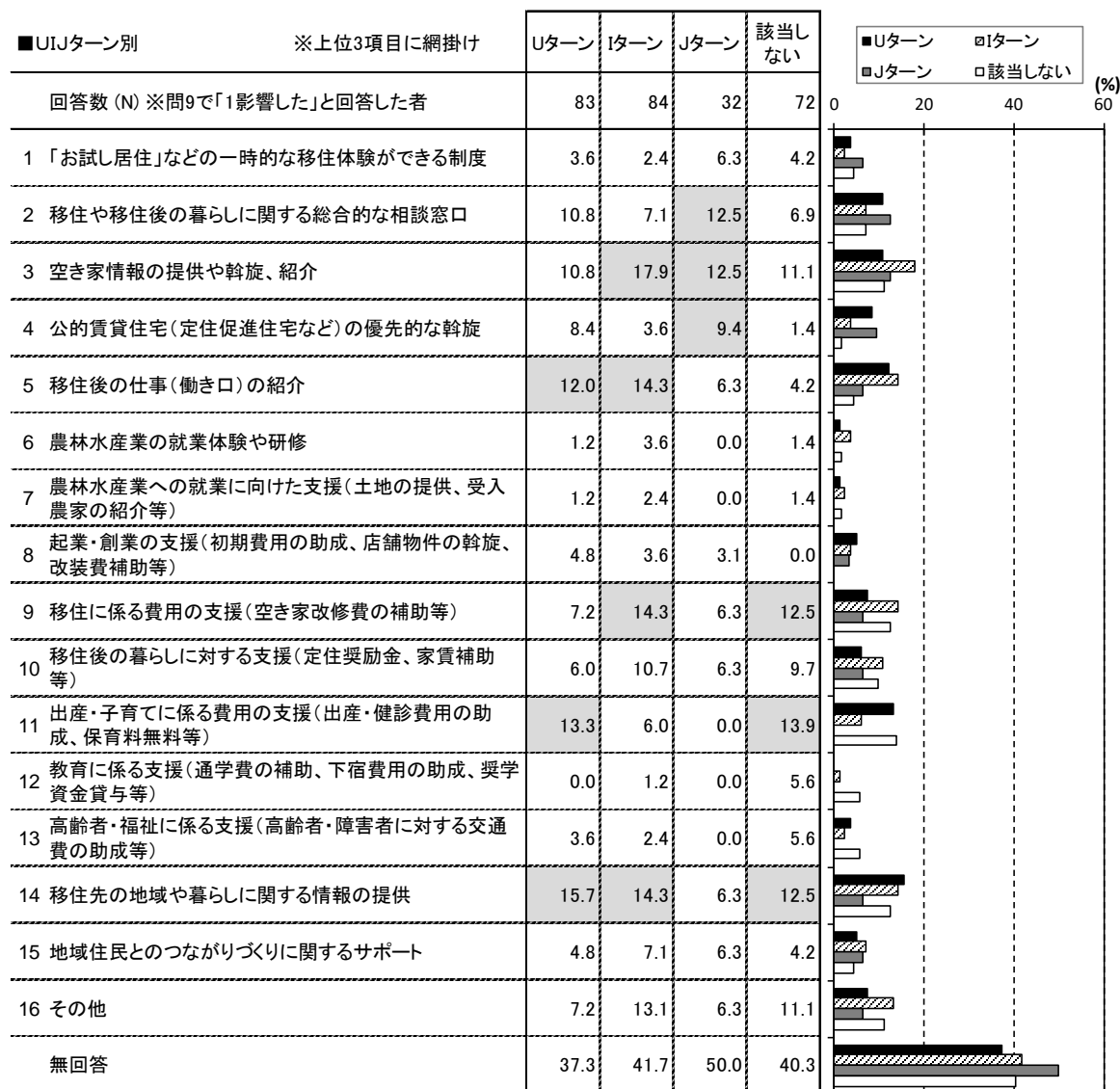
	10・20代	30代	40代	50代	60代～
その他の施策(地域おこし協力隊等)	2.8	0.0	0.0	2.8	0.0
行政施策の利用はなし	8.3	9.5	0.0	8.3	3.7

回答数 (N) ※問9で「1影響した」と回答した者

- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に利用した行政施策について、前住地別でみると、都市部からの転居者は「移住先の地域や暮らしに関する情報の提供」が14.7%で最も高くなっており、次いで「空き家情報の提供や斡旋、紹介」が13.3%、「移住に係る費用の支援」が11.9%で続いている。



- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に利用した行政施策について、UIJ ターン別でみると、U ターン者は住まいに関わる施策の利用割合は比較的低く、「移住先の地域や暮らしに関する情報の提供」や「出産・子育てに係る費用の支援」、「移住後の仕事（働き口）の紹介」が上位に挙げられている。
- ▶ I ターン者は「空き家情報の提供や斡旋、紹介」が 17.9%と最も高くなっているほか、「移住後の仕事（働き口）の紹介」や「移住に係る費用の支援」、「移住後の地域や暮らしに関する情報の提供」が同率で第2位である。
- ▶ J ターン者は「移住や移住後の暮らしに関する総合的な相談窓口」と「空き家情報の提供や斡旋、紹介」が同率で第1位に挙げられている。



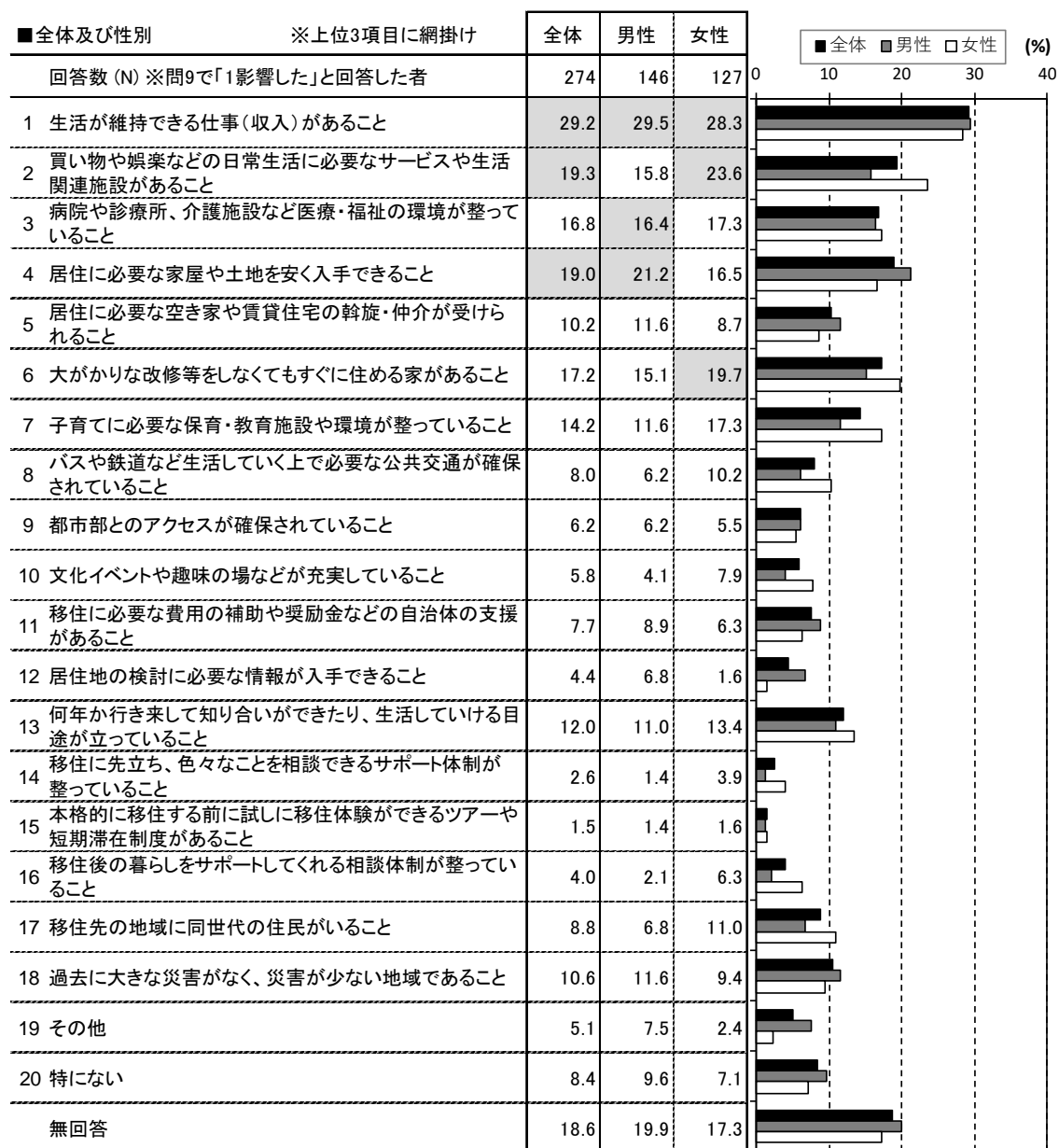
- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に利用した行政施策について、過疎地域に転居したタイミング別（問 10、後述）でみると、「転職・転業」や「退職」のタイミングで転居した移住者は、移住する際に「移住後の仕事（働き口）の紹介」を受けた人が比較的多い。一方、「転勤」で転居した人は、「空き家情報の提供や斡旋、紹介」を受けたとする割合が比較的高い。
- ▶ このほか、「結婚・離婚」のタイミングで転居した人では、「移住先の地域や暮らしに関する情報の提供」が、「住宅の事情」で転居した人では、「出産・子育てに係る費用の支援」が、それぞれ最も高い割合となっている。

■ 過疎地域への転居のタイミング別 ※上位2項目に網掛け	就職・就業	転職・転業	転勤	退職	入学・進学	結婚・離婚	住宅の事情 (新築、借家 への移転)	親や子との 同居・近居	家族・親族 の介護	家族の移動 に伴って移 動
回答数 (N) ※問9で「影響した」と回答した者	25	63	13	34	4	27	26	19	8	3
1 「お試し居住」などの一時的な移住体験ができる制度	12.0	1.6	7.7	5.9	0.0	3.7	3.8	0.0	0.0	0.0
2 移住や移住後の暮らしに関する総合的な相談窓口	4.0	6.3	7.7	17.6	0.0	7.4	7.7	5.3	25.0	0.0
3 空き家情報の提供や斡旋、紹介	4.0	11.1	23.1	20.6	25.0	7.4	15.4	10.5	25.0	0.0
4 公的賃貸住宅（定住促進住宅など）の優先的な斡旋	4.0	6.3	0.0	5.9	50.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
5 移住後の仕事（働き口）の紹介	0.0	12.7	7.7	23.5	0.0	11.1	0.0	5.3	12.5	0.0
6 農林水産業の就業体験や研修	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	5.3	0.0	0.0
7 農林水産業への就業に向けた支援（土地の提供、受入農家の紹介等）	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0
8 起業・創業の支援（初期費用の助成、店舗物件の斡旋、改装費補助等）	4.0	3.2	0.0	8.8	0.0	3.7	0.0	5.3	0.0	0.0
9 移住に係る費用の支援（空き家改修費の補助等）	4.0	11.1	7.7	14.7	0.0	11.1	15.4	5.3	12.5	0.0
10 移住後の暮らしに対する支援（定住奨励金、家賃補助等）	0.0	9.5	7.7	17.6	0.0	3.7	11.5	5.3	0.0	0.0
11 出産・子育てに係る費用の支援（出産・健診費用の助成、保育料無料等）	4.0	4.8	7.7	0.0	0.0	14.8	26.9	15.8	0.0	33.3
12 教育に係る支援（通学費の補助、下宿費用の助成、奨学金貸与等）	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	3.7	0.0	5.3	0.0	0.0
13 高齢者・福祉に係る支援（高齢者・障害者に対する交通費の助成等）	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	3.7	0.0	10.5	0.0	0.0
14 移住先の地域や暮らしに関する情報の提供	4.0	11.1	15.4	29.4	0.0	18.5	15.4	5.3	12.5	0.0
15 地域住民とのつながりづくりに関するサポート	0.0	4.8	7.7	11.8	0.0	3.7	7.7	0.0	0.0	0.0
16 その他	20.0	14.3	0.0	2.9	0.0	7.4	0.0	15.8	0.0	33.3
無回答	52.0	49.2	61.5	23.5	0.0	48.1	34.6	36.8	37.5	33.3

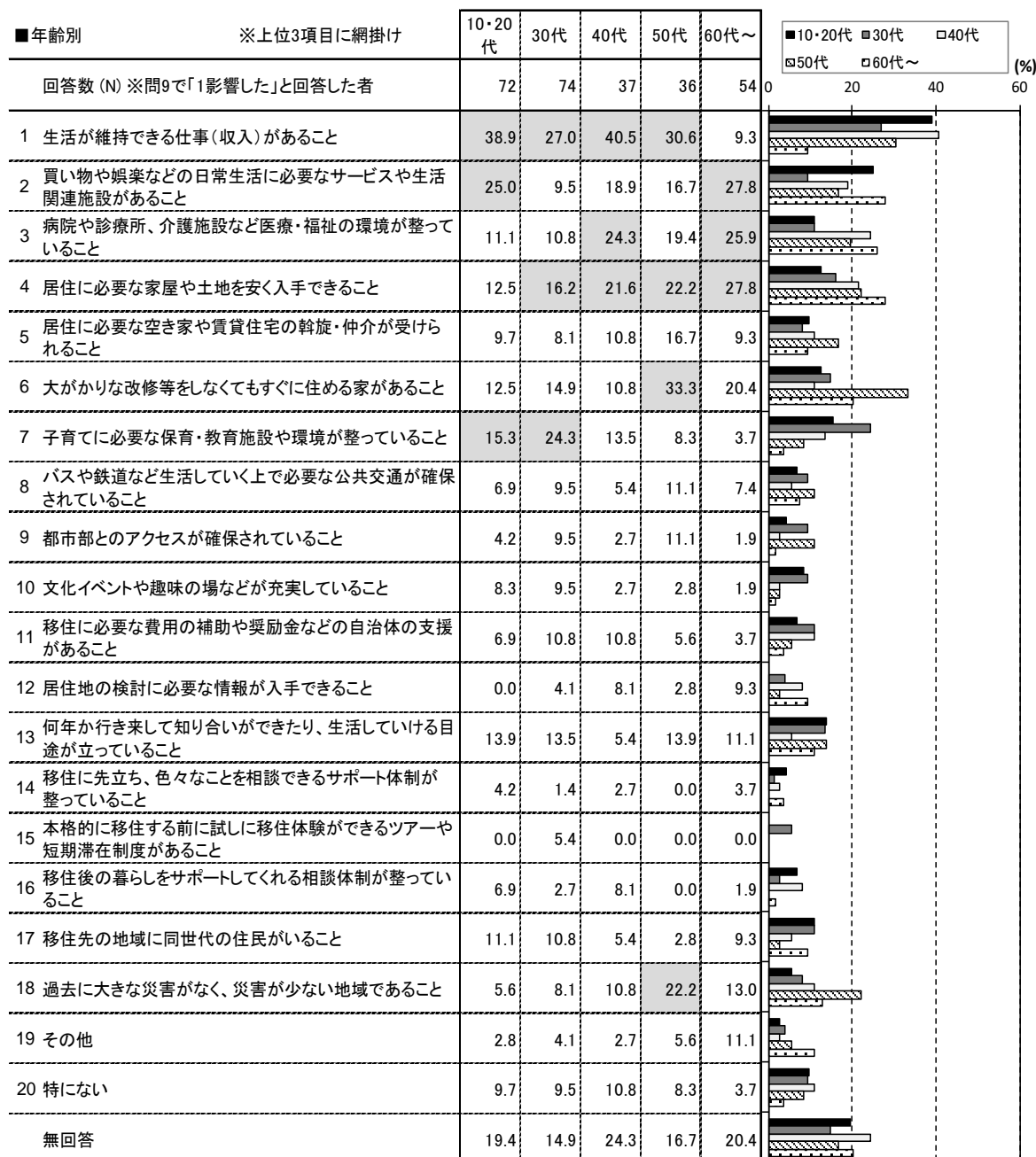
④地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が重視した条件

問9-3.【問9で「1」に○をつけた人のみ】移住する際、重視した条件は何ですか。(複数選択可)

- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が実際に移住する際に重視した条件についてみると、「生活が維持できる仕事(収入)があること」が最も多くから挙げられており、29.2%を占めている。次いで「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設があること」、「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること」、「大がかりな改修等をしなくてもすぐに住める家があること」、「病院や診療所、介護施設など医療・福祉の環境が整っていること」が15%超で上位となっている。
- ▶ 性別でみると、第1位は男女ともに「生活が維持できる仕事(収入)があること」であるが、第2位以下は男女で差がみられ、男性は「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること」が、女性は「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設があること」がそれぞれ20%を超え、第2位に挙げられている。



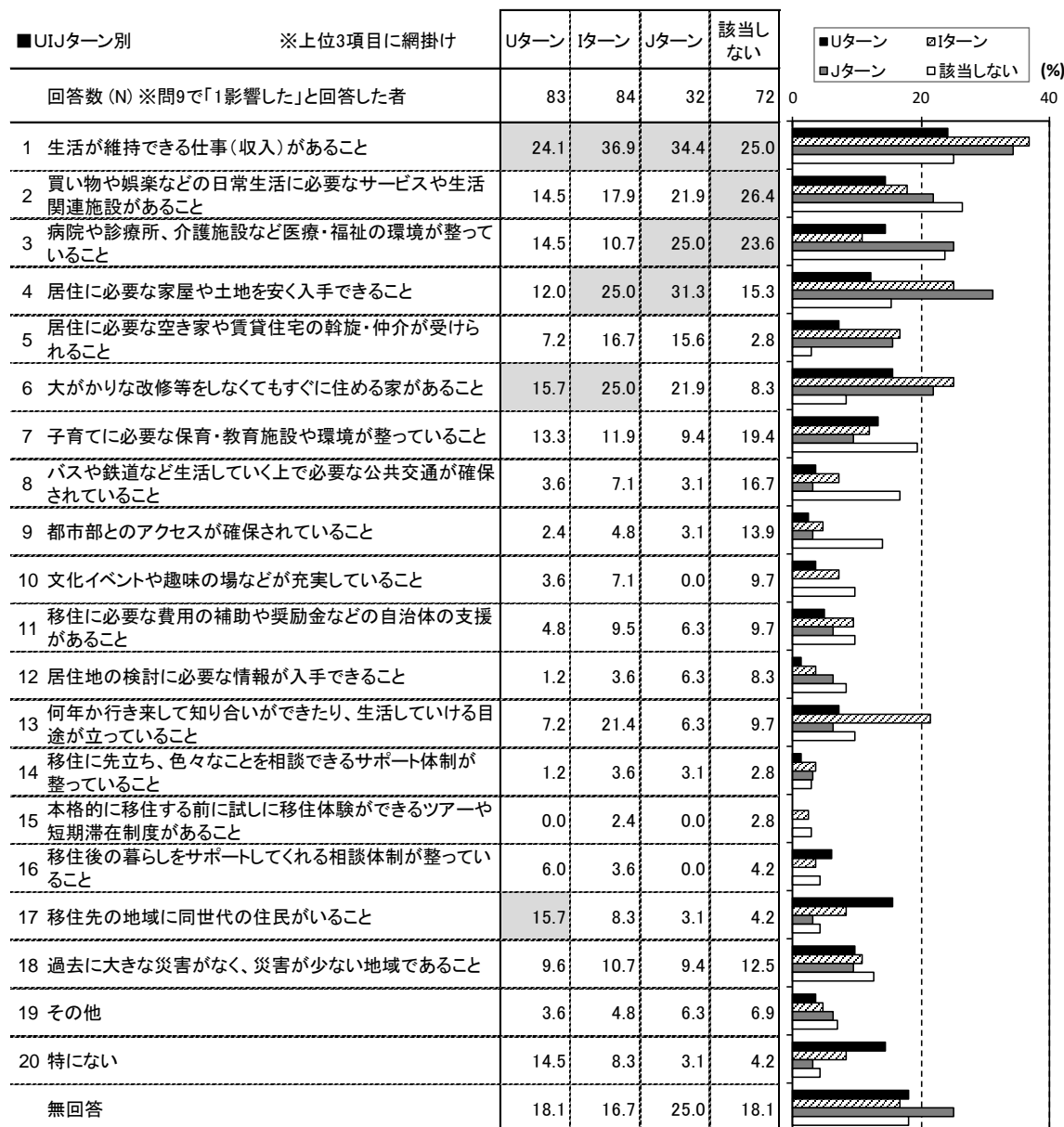
- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に重視した条件について、年齢別でみると、40代までは「生活が維持できる仕事（収入）があること」が最も高い割合となっているが、50代では「大がかりな改修等をしなくてもすぐに住める家があること」が、60代以上では「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設があること」と「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること」がそれぞれ最も高い割合となっている。
- ▶ また、30代では第2位に「子育てに必要な保育・教育施設や環境が整っていること」が挙げられている一方、40代と60代以上では「病院や診療所、介護施設など医療・福祉の環境が整っていること」が24～25%と上位に挙げられている。



- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に重視した条件について、前住地別でみると、「生活が維持できる仕事（収入）があること」は都市部から転居した移住者では 30%を超えており、都市部以外から転居した移住者よりも高い割合となっている。
- ▶ また、「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること」、「大がかりな改修等をしなくてもすぐに住める家があること」、「居住に必要な空き家や賃貸住宅の斡旋・仲介が受けられること」など、住まいに関する条件についても、都市部から転居した移住者の方が総じて高い割合となっている。



- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に重視した条件について、UIJ ターン別でみると、いずれも第1位は「生活が維持できる仕事（収入）があること」で、特にI ターン者で36.9%と最も高くなっている。
- ▶ 「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること」はI ターン者及びJ ターン者では第2位と高いが、U ターン者では低い。
- ▶ U ターン者では、「大がかりな改修等をしなくてもすぐに住める家があること」と移住先の地域に同世代の住民がいること」が同率で第2位に挙げられている。



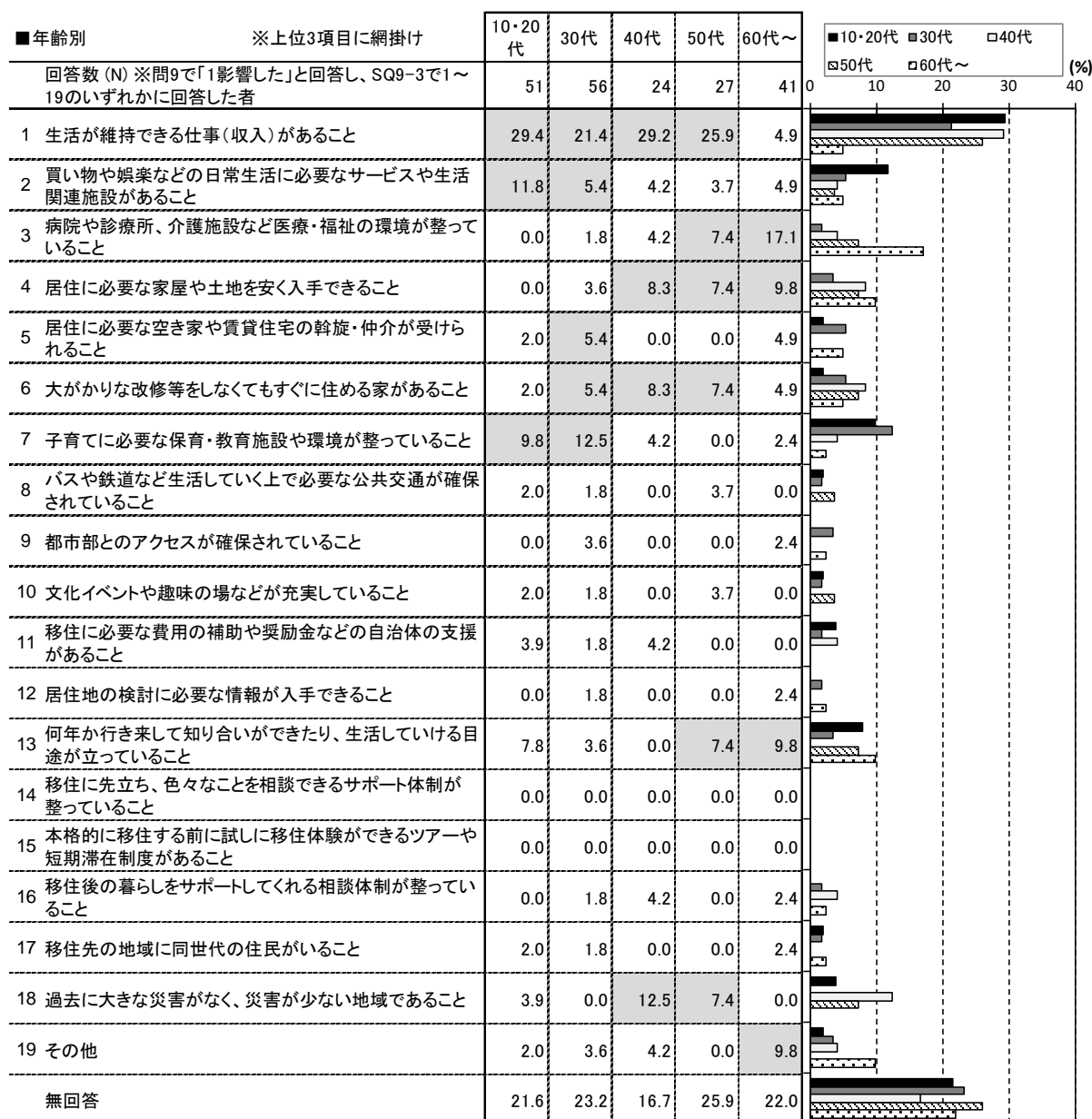
⑤地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が最も重視した条件

問9-4.【問9-3で「1～19」のいずれかに○をつけた人のみ】その中で、最も重視したことは何ですか。(1つ記入)

- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が実際に移住する際に最も重視した条件をみると、全体・男女ともに「生活が維持できる仕事(収入)があること」が20%を超え、最も高い割合となっている。
- ▶ 第2位をみると、全体では「子育てに必要な保育・教育施設や環境が整っていること」が挙げられているが、男女で差がみられ、男性では「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること」が、女性では「子育てに必要な保育・教育施設や環境が整っていること」が第2位に挙げられている。



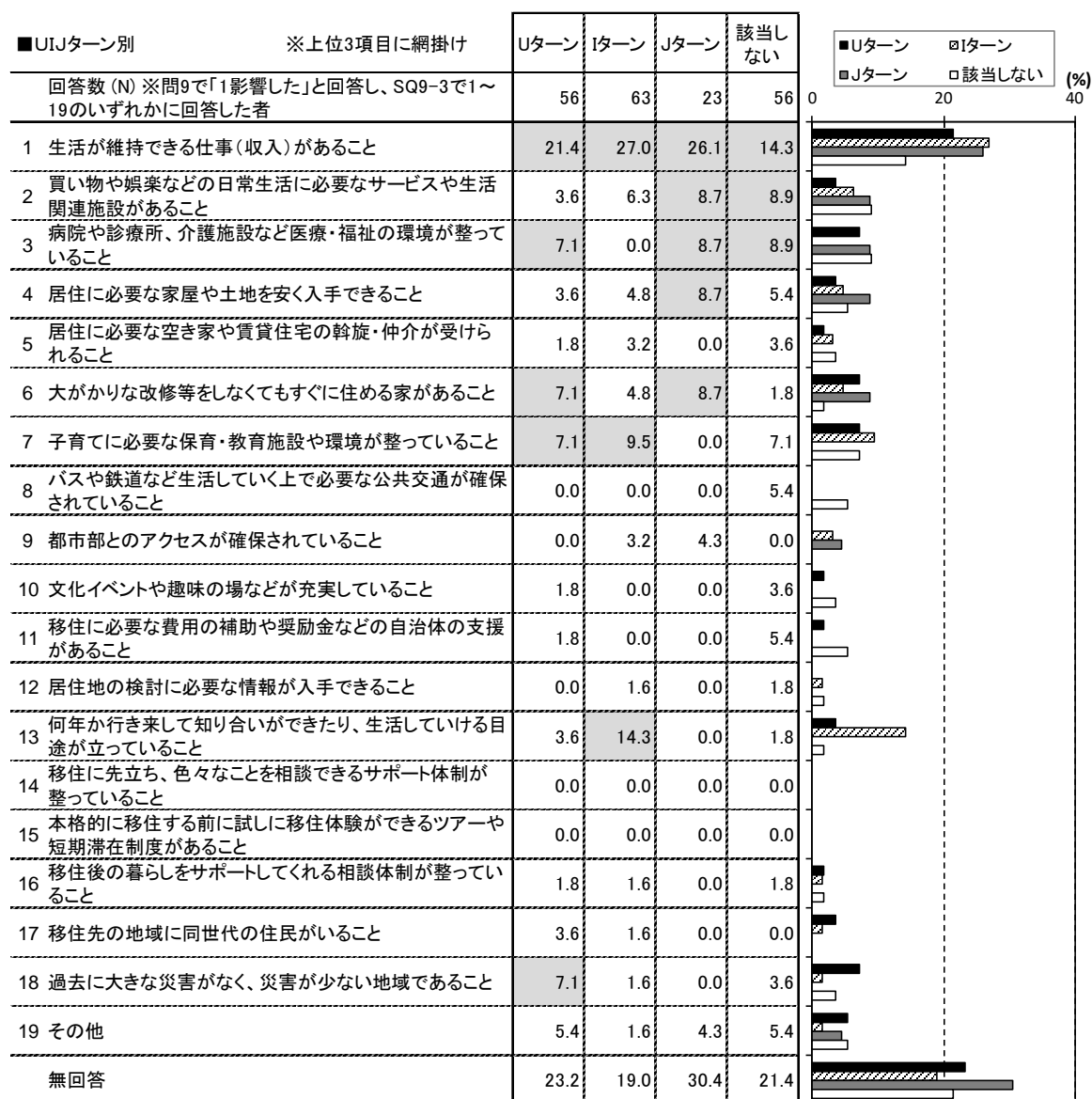
- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に最も重視した条件について、年齢別で見ると、50代までは「生活が維持できる仕事（収入）があること」が最も高い割合となっているが、60代以上では「病院や診療所、介護施設など医療・福祉の環境が整っていること」が第1位となっている。
- ▶ また、「子育てに必要な保育・教育施設や環境が整っていること」は30代の12.5%が最も重視したとしている。



- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に最も重視した条件について、前住地別でみると、「生活が維持できる仕事（収入）があること」は都市部からの転居者と都市部以外からの転居者のどちらからも第1位に挙げられている。
- ▶ 第2位以降は前住地別で異なり、都市部からの転居者では「何年か行き来して知り合いができた、生活していける目途が立っていること」と「病院や診療所、介護施設など医療・福祉の環境が整っていること」がともに7.7%で第2位に挙げられている。



- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人が移住する際に最も重視した条件について、UIJ ターン別でみると、いずれも第1位は「生活が維持できる仕事（収入）があること」で、なかでもIターン者とJターン者で25%超と比較的高くなっている。

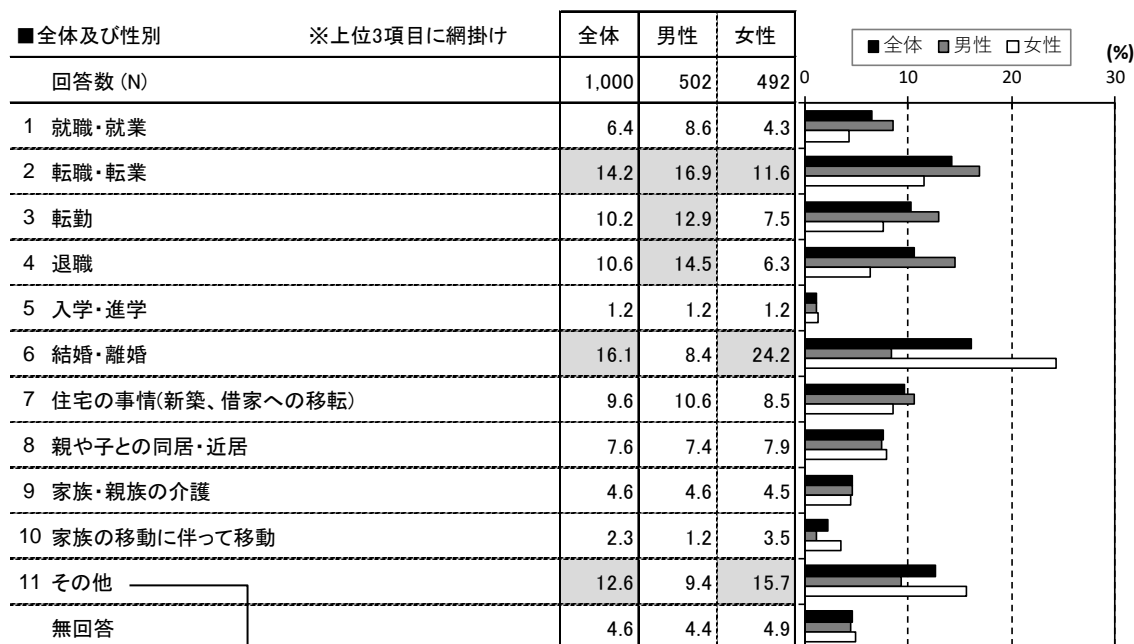


(4) 転居のタイミングや今後の転居の可能性等

①過疎地域への転居のタイミング

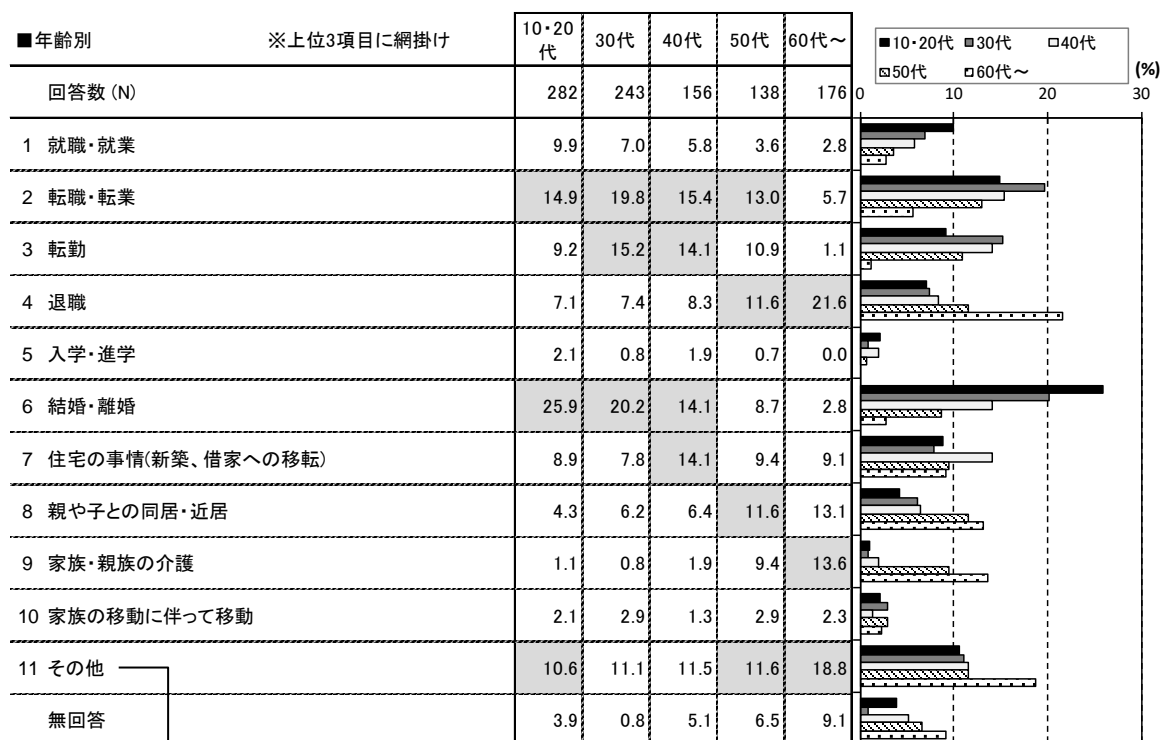
問10. お住まいの地域に転居されたのは、どのようなタイミングでしたか。(〇はひとつ)

- ▶ 過疎地域への転居のタイミングをみると、全体で最も多かったのは「結婚・離婚」であり、次いで「転職・転業」、「その他」、「退職」、「転勤」と続いている。
- ▶ 性別でみると、男性では「転職・転業」が最も多く 16.9%を占めている一方、女性では「結婚・離婚」が 24.2%と最も高い割合となっている。

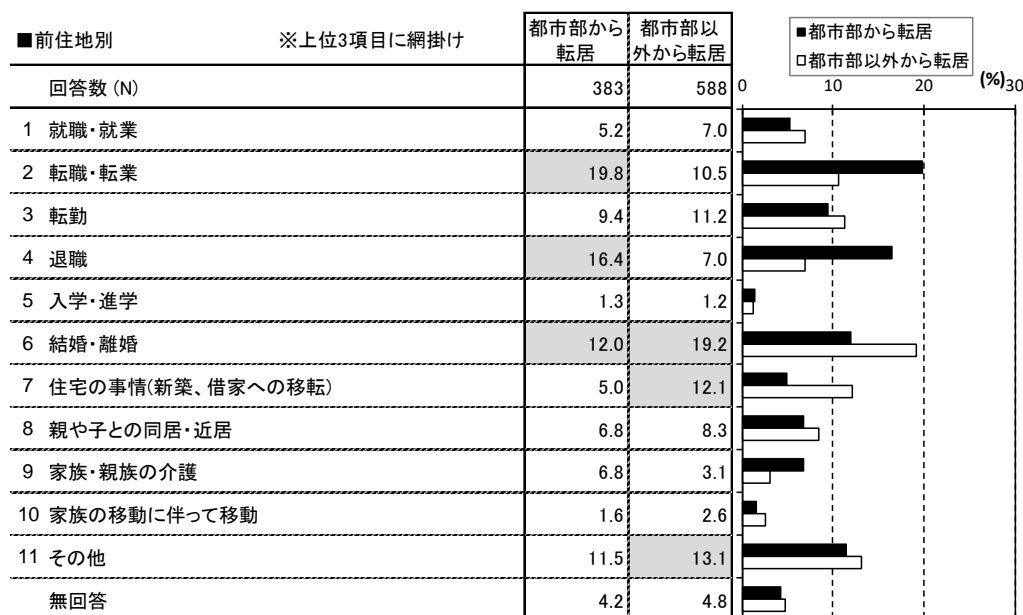


	全体	男性	女性
個人や家庭の事情(DV、金銭問題、失恋、休学など)	2.7	2.2	3.1
体力の衰えや病気等により	0.9	0.4	1.4
施設・病院等の入所のため	1.1	0.8	1.4
住宅の確保や購入、解体等のため	1.0	0.6	1.4
妊娠・出産のため	1.0	1.2	0.8
親や配偶者等との死別	1.0	0.2	1.8
知人等の紹介	0.3	0.2	0.4
倒産・リストラ	0.2	0.4	0.0
その他	1.2	1.2	1.2

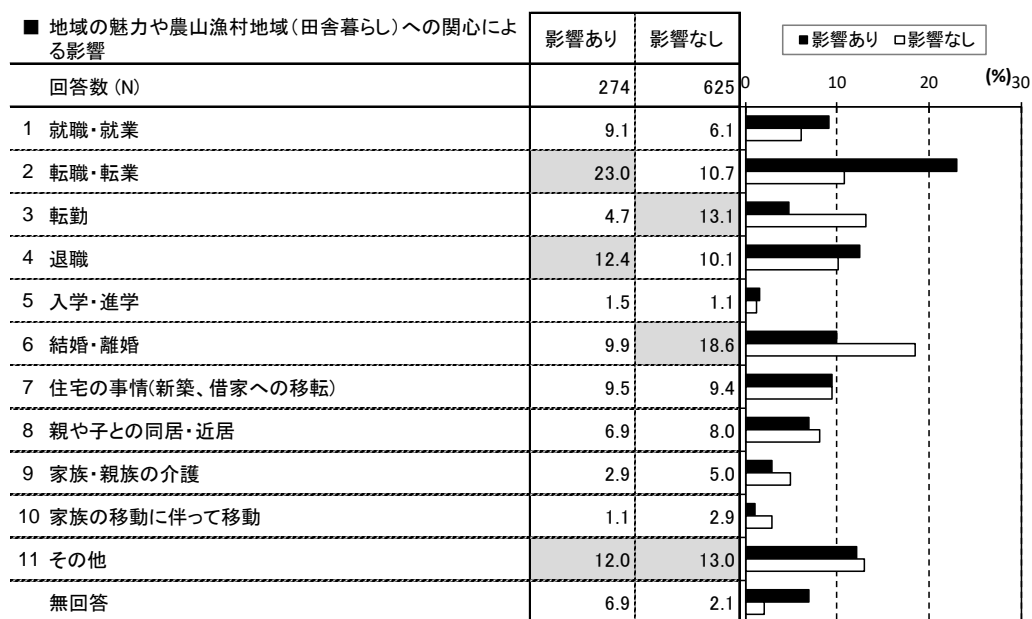
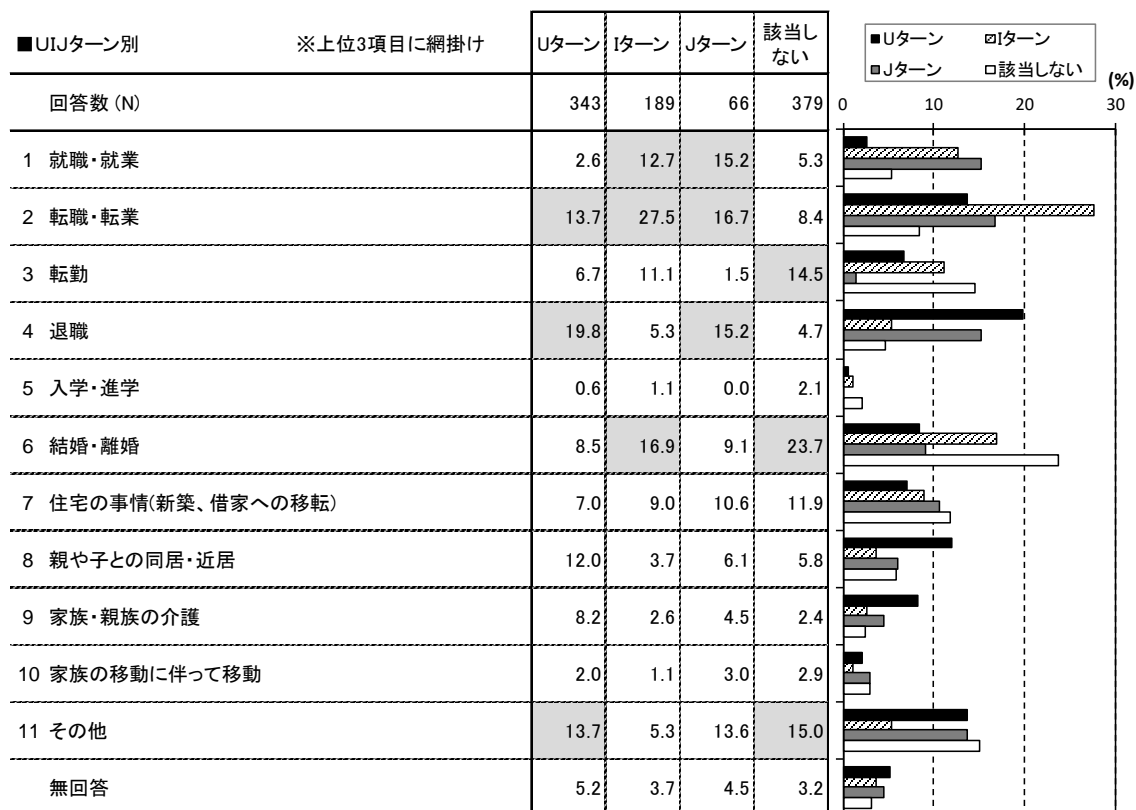
- ▶ 転居のタイミングについて、年齢別で見ると、10・20代と30代は「結婚・離婚」が最も多く、40代と50代では「転職・転業」が、60代以上では「退職」が最も高い割合となっている。
- ▶ 前住地別で見ると、都市部からの転居者は「転職・転業」が19.8%で最も高い割合となっている。一方、都市部以外からの転居者では「結婚・離婚」が19.2%で最も高い割合となっている。



	10・20代	30代	40代	50代	60代～
個人や家庭の事情(DV、金銭問題、失恋、休学など)	4.3	1.7	1.9	2.2	2.3
体力の衰えや病気等により	0.0	0.8	1.3	0.7	2.3
施設・病院等の入所のため	0.4	1.7	1.3	0.7	1.7
住宅の確保や購入、解体等のため	0.4	0.0	0.0	2.2	3.4
妊娠・出産のため	0.4	0.0	1.9	1.4	2.3
親や配偶者等との死別	1.4	2.5	0.0	0.0	0.0
知人等の紹介	0.0	0.0	0.0	0.7	1.1
倒産・リストラ	0.4	0.0	0.6	0.0	0.0
その他	1.1	1.7	1.3	0.0	1.7



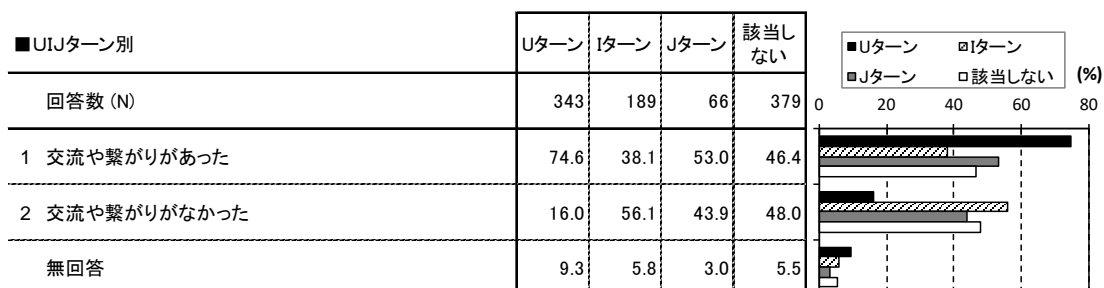
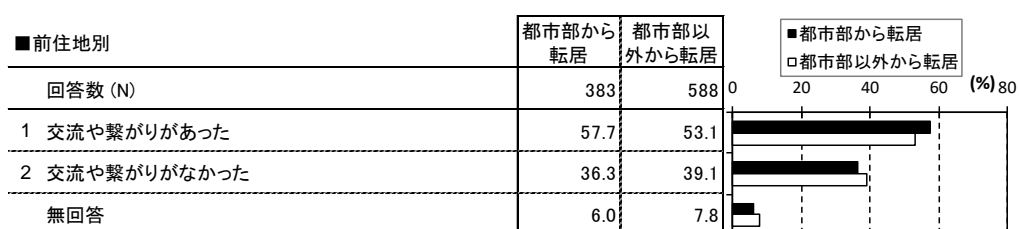
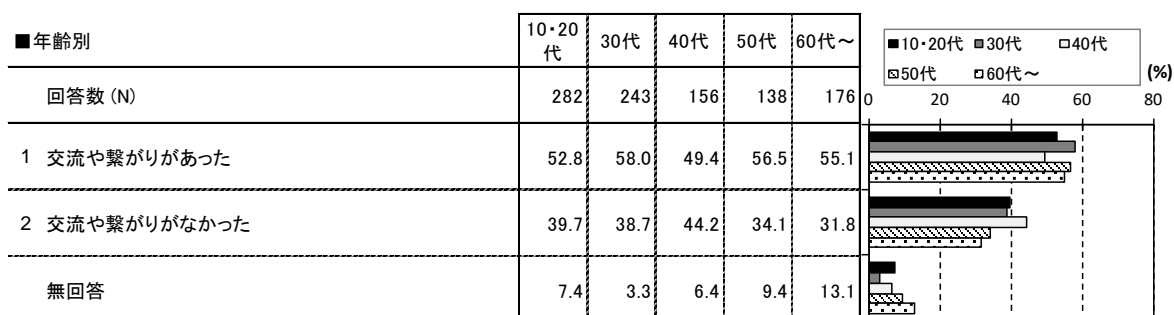
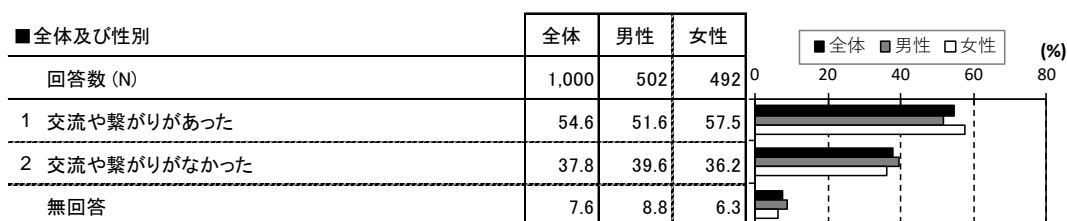
- ▶ 転居のタイミングについて、UIJ ターン別でみると、U ターン者は「退職」が最も多く、I ターン者と J ターン者は「転職・転業」が最も多い。
- ▶ 地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したかどうかの別でみると、影響したと回答した人の 23.0%は「転職・転業」のタイミングで転居している。一方、地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響しなかったと回答した人では、「結婚・離婚」や「転勤」が転居のタイミングとして比較的多くから挙げられている。



②転居地域との交流・繋がりの有無

問11. 現在お住まいの地域に転居される前から当該地域と交流や繋がりはありましたか。(○はひとつ)

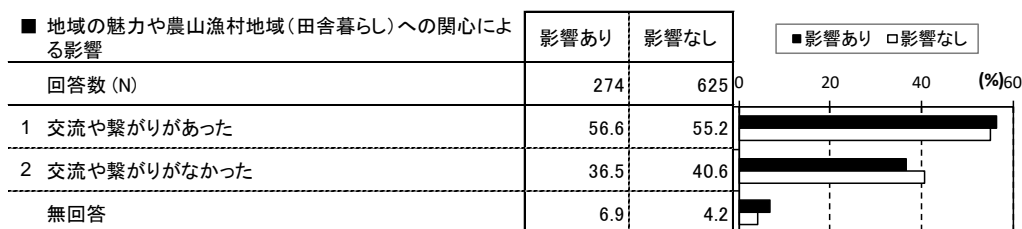
- ▶ 転居前に現住地との交流・繋がりがあったかをみると、「交流や繋がりがあった」とする移住者が54.6%となっており、男性よりも女性で高い割合となっている。
- ▶ 年齢別でみると、30代で「交流や繋がりがあった」とする移住者の割合が最も高くなっている。
- ▶ 前住地別でみると、都市部から転居した移住者の57.7%は現住地と「交流や繋がりがあった」としている。
- ▶ UIJターン別でみると、転居先と「交流や繋がりがあった」割合はUターン者では約4分の3にのぼり、Jターン者でも50%を超えている。
- ▶ 現住地の地域ブロック別でみると、「交流や繋がりがあった」とする移住者の割合が最も高いのは北陸で、75.0%となっている。次いで東海と四国が60%超と比較的高い割合となっている。



■現住地の地域ブロック別

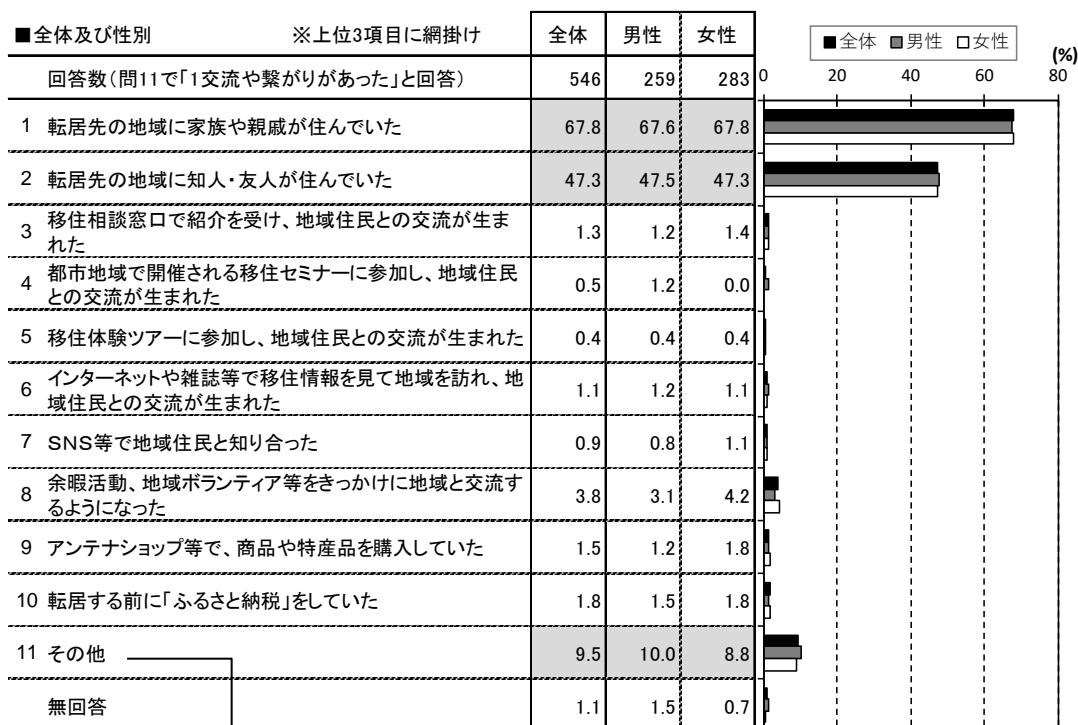
	北海道	東北	関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
回答数(N)	154	193	53	38	28	66	99	70	200	75
1 交流や繋がりがあった	46.8	57.0	56.6	63.2	75.0	56.1	50.5	61.4	53.5	57.3
2 交流や繋がりがなかった	50.0	34.7	35.8	31.6	25.0	39.4	41.4	34.3	35.5	34.7
無回答	3.2	8.3	7.5	5.3	0.0	4.5	8.1	4.3	11.0	8.0

- ▶ 転居前に現住地との交流・繋がりの有無について、地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したかどうかの別でみると、地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人のほうが、「交流や繋がりがあった」とする割合が高い。



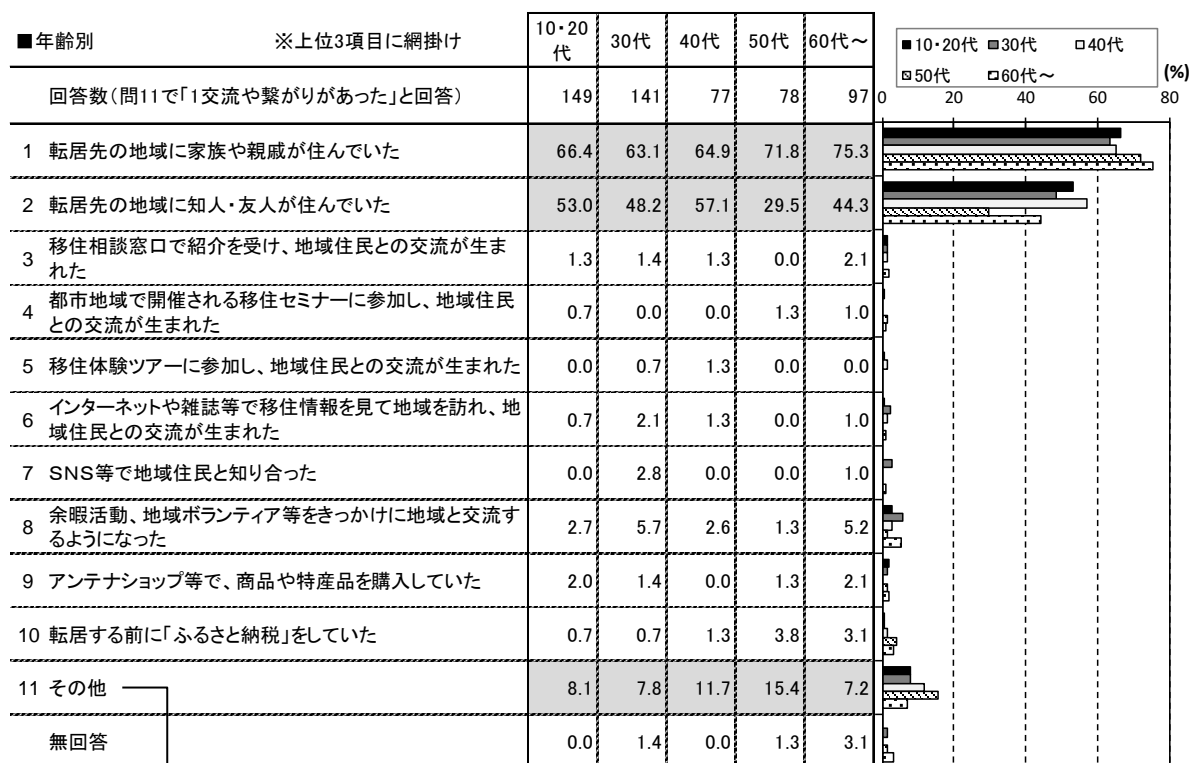
問11-1. 【問11で「1」に○をつけた人のみ】どのような交流や繋がりがありましたか。(複数選択可)

- ▶ 転居前から現住地と交流や繋がりがあったという移住者について、どのような交流や繋がりがあったかをみると、「転居先の地域に家族や親戚が住んでいた」が67.8%で最も多く、次いで「転居先の地域に知人・友人が住んでいた」が47.3%で、この2つの項目に回答が集中していた。
- ▶ 「その他」の交流や繋がりとして具体的な記述があった中では、職場や学校があったという回答や、出張で訪れるなど仕事等につながりがあったという回答が比較的多くみられた。



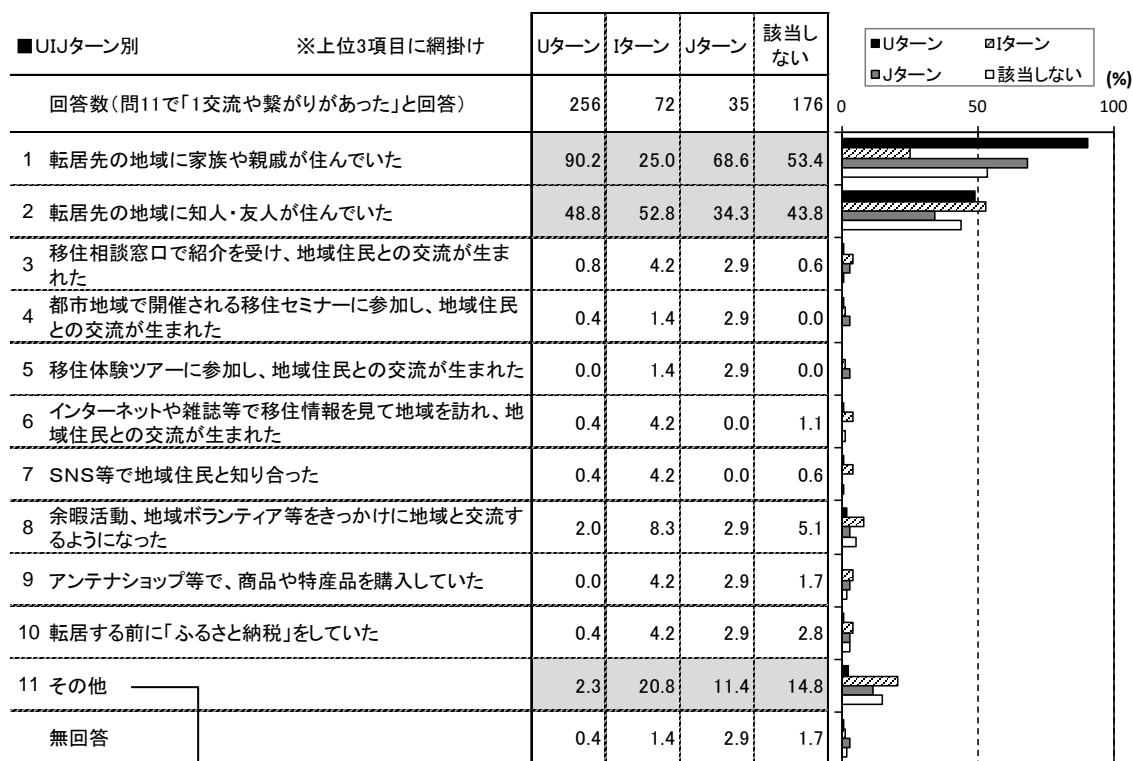
	全体	男性	女性
職場や学校があった	2.6	1.9	3.2
仕事等につながりがあった	2.0	1.9	1.8
以前住んでいた、自宅があった	1.8	2.3	1.4
観光等で来たことがあった	1.3	0.0	2.5
親類・婚約者等のふるさとだった	1.3	2.3	0.4
その他	1.1	1.6	0.7

- ▶ 転居前の現住地との交流や繋がりの内容を年齢別で見ると、いずれの年齢も上位2項目は共通している。
- ▶ 「転居先の地域に家族や親戚が住んでいた」は50代以上で70%を超えており、40代までの年齢では「転居先の地域に知人・友人が住んでいた」が50代以上より高い割合になっている。



	10・20代	30代	40代	50代	60代～
職場や学校があった	3.4	1.4	6.5	2.6	0.0
仕事等でつながりがあった	2.7	2.1	0.0	2.6	1.0
以前住んでいた、自宅があった	1.4	1.4	2.6	1.3	3.1
観光等で来たことがあった	0.0	1.4	1.3	3.8	1.0
親類・婚約者等のふるさとだった	1.4	0.7	2.6	0.0	2.1
その他	0.7	1.4	0.0	1.3	2.1

- ▶ 転居前の現住地との交流や繋がりの内容を UIJ ターン別でみると、「転居先の地域に家族や親戚が住んでいた」は、Uターン者で90%を超えており、Jターン者でも70%近くにのぼる。
- ▶ 一方、転居先と交流や繋がりがあったIターン者の約半数は「転居先の地域に知人・友人が住んでいた」としている。

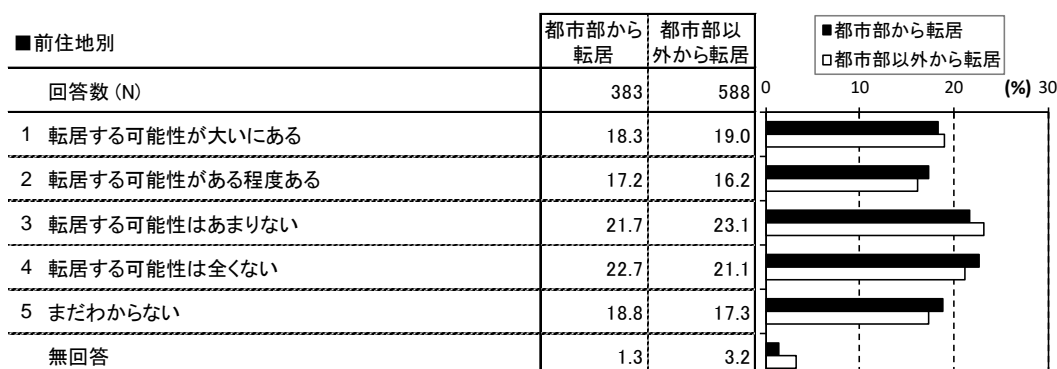
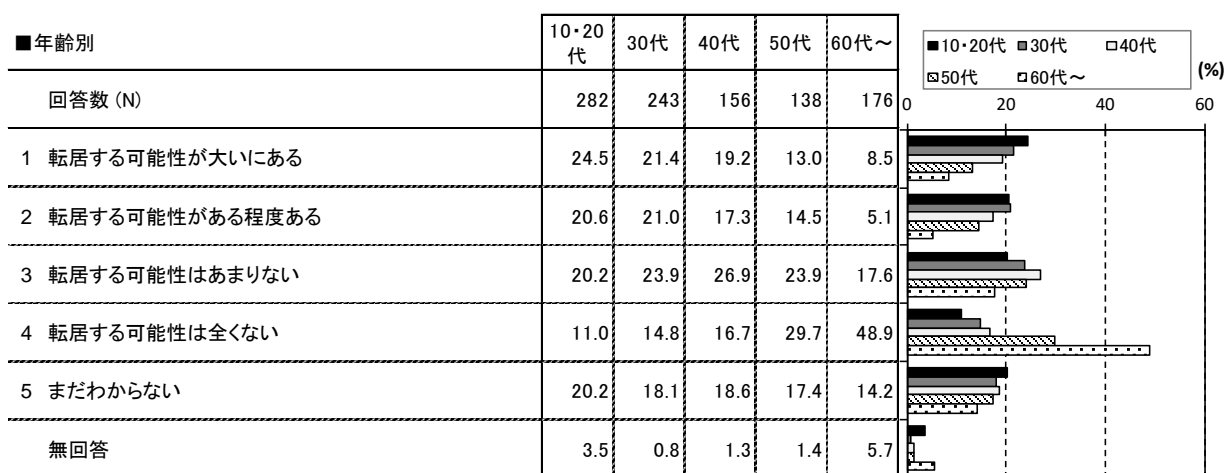


	Uターン	Iターン	Jターン	該当なし
職場や学校があった	0.0	4.2	5.7	4.6
仕事等につながりがあった	0.4	5.6	0.0	3.4
以前住んでいた、自宅があった	1.6	0.0	2.9	2.9
観光等で来たことがあった	0.0	5.6	0.0	1.7
親類・婚約者等のふるさとだった	0.4	4.2	2.9	1.1
その他	0.8	4.2	0.0	0.6

③今後の転居の可能性

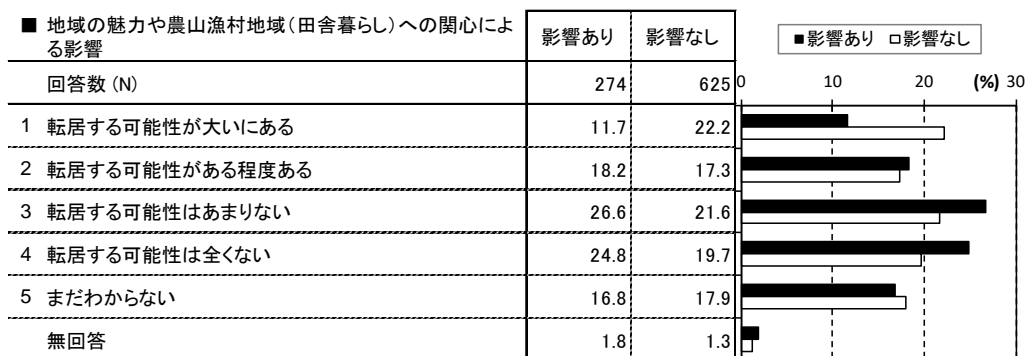
問12. 今後、他の地域に転居する可能性について教えてください。(〇はひとつ)

- ▶ 今後の転居の可能性については、転居する可能性はない（あまりない又は全くない）という移住者の方が転居する可能性がある（大いにある又はある程度ある）という移住者よりも多い。
- ▶ 性別でみると、男性の方が女性よりも転居する可能性はないとする割合が高い。
- ▶ 年齢別でみると、10・20代は「転居する可能性が大いにある」が最も多くなっている。一方、30代と40代は「転居する可能性はあまりない」が最も多く、50代以上は「転居する可能性は全くない」が最も高い割合となっている。特に60代以上は転居する可能性がある（大いにある又はある程度ある）は13.6%で、48.9%は「転居する可能性は全くない」としている。
- ▶ 前住地別でみると、都市部から転居した移住者の44.4%は転居する可能性はない（あまりない又は全くない）としており、「転居する可能性は全くない」は22.7%と都市部以外から転居した移住者（21.1%）よりも高い割合となっている。



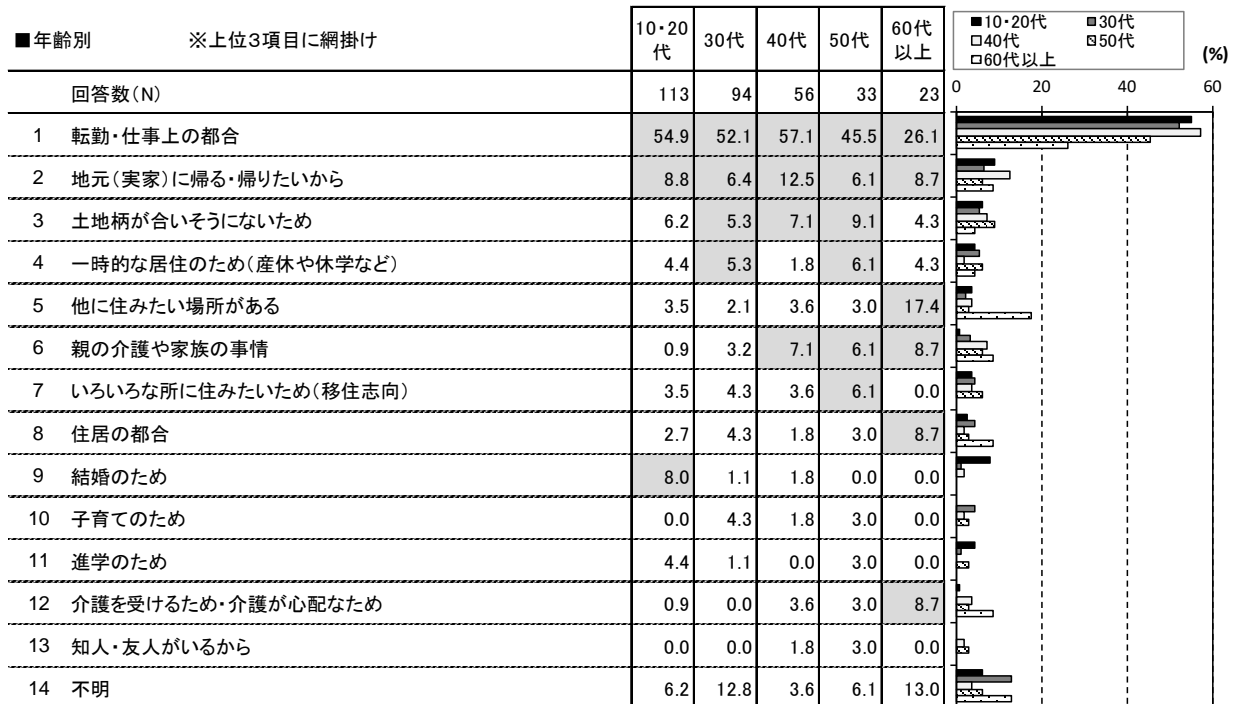
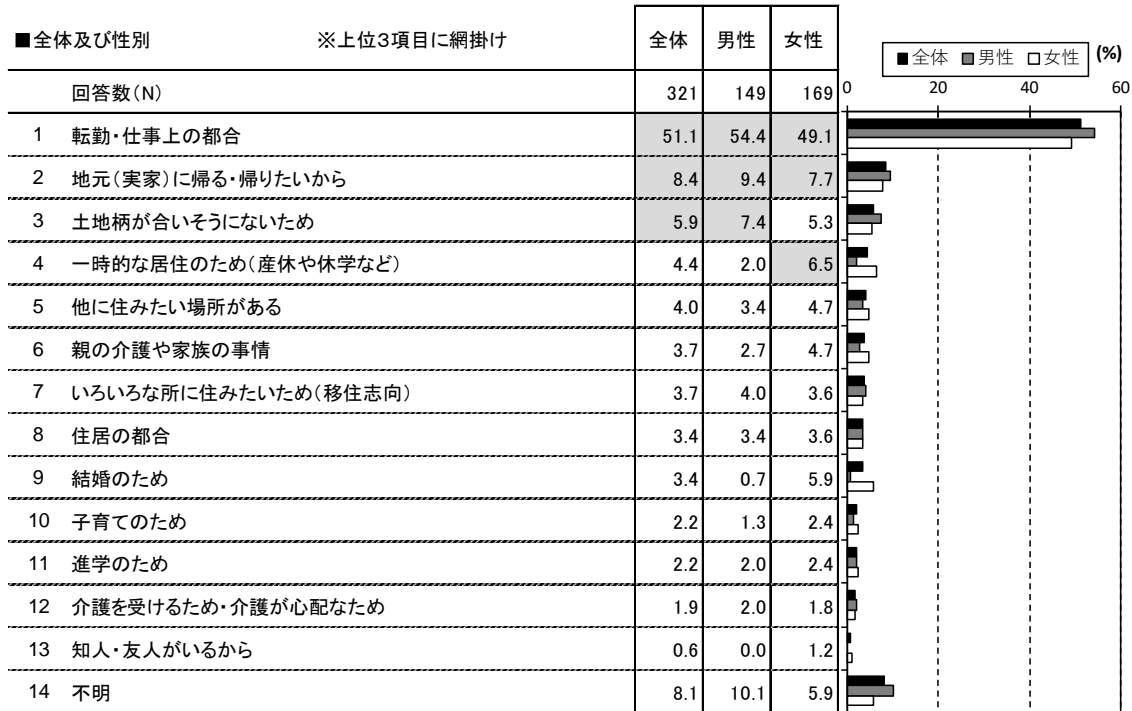
- ▶ 今後の転居の可能性について、現住地の地域ブロック別でみると、「転居する可能性が大いにある」の割合が最も高いのは関東で、22.6%を占めている。一方、「転居する可能性は全くない」の割合は東海で最も高く、36.8%を占めている。
- ▶ また、地域の魅力や農山漁村地域への関心が移住に影響したと回答した人の51.4%は転居する可能性はない（あまりない又は全くない）としている。

■現住地の地域ブロック別	北海道	東北	関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
回答数 (N)	154	193	53	38	28	66	99	70	200	75
1 転居する可能性が大いにある	22.1	18.1	22.6	15.8	14.3	21.2	17.2	21.4	15.5	21.3
2 転居する可能性がある程度ある	18.2	16.6	15.1	21.1	10.7	18.2	11.1	14.3	15.5	28.0
3 転居する可能性はあまりない	21.4	22.3	20.8	15.8	46.4	19.7	22.2	24.3	25.5	10.7
4 転居する可能性は全くない	21.4	23.8	24.5	36.8	17.9	16.7	24.2	21.4	23.0	12.0
5 まだわからない	15.6	18.1	13.2	10.5	10.7	22.7	22.2	17.1	17.0	24.0
無回答	1.3	1.0	3.8	0.0	0.0	1.5	3.0	1.4	3.5	4.0

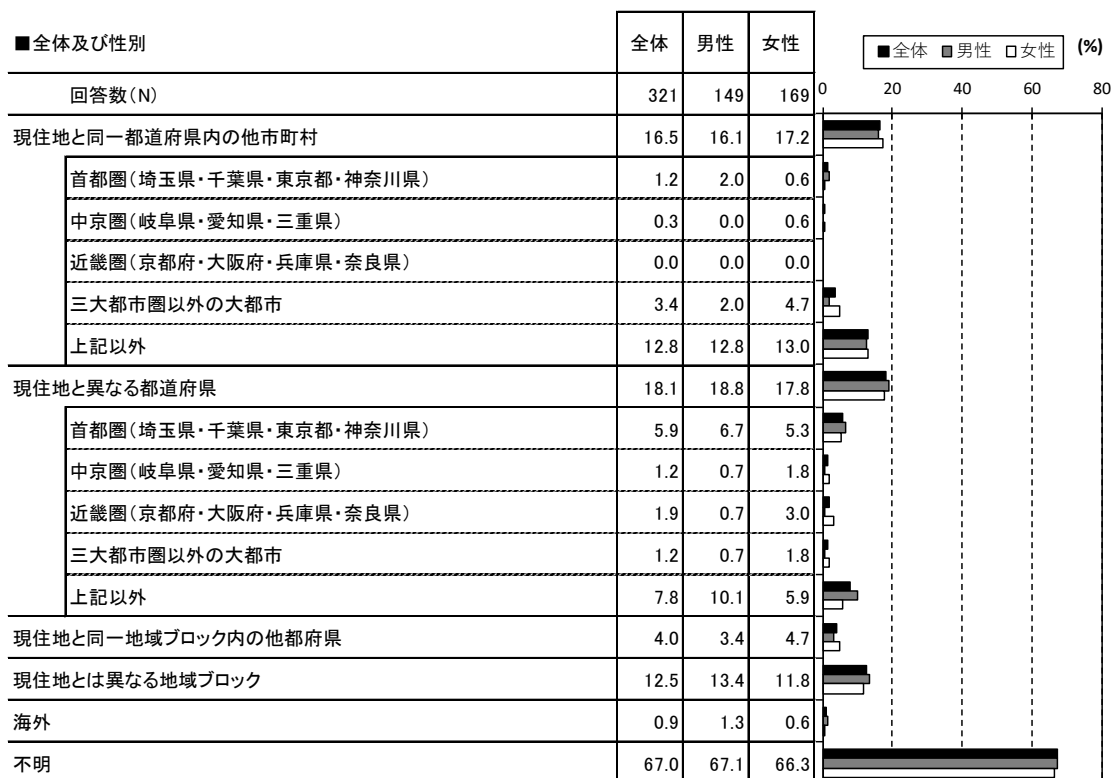


問12-1. 【問12で「1」又は「2」に○をつけた人のみ】その理由やお考えの転居先地域などを教えてください。

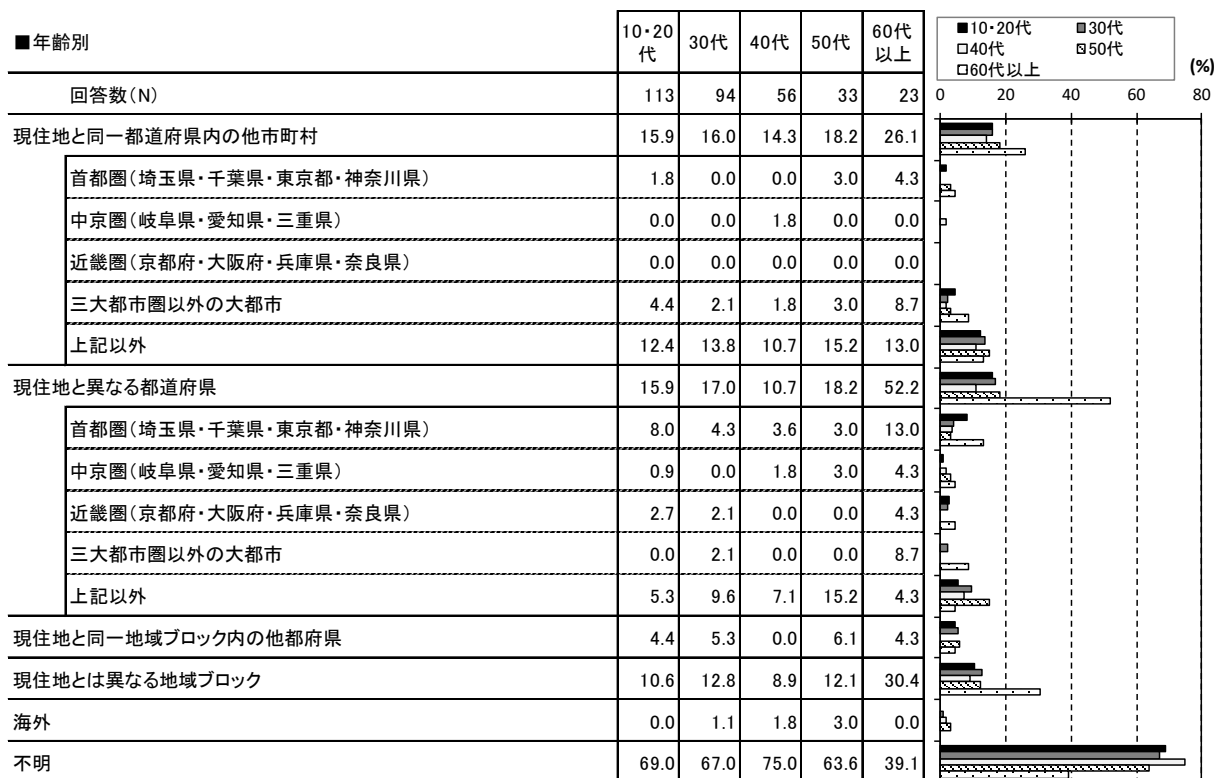
- ▶ 今後の転居の可能性が大いにある又はある程度あるという移住者に、その理由や転居先などを聞いたところ、321件の記述回答が得られた。今後転居する理由について分類集計すると、最も多かったのは「転勤・仕事上の都合」で、記述回答の51.1%となっている。
- ▶ 今後の転居理由について年齢別でみると、40代までは「転勤・仕事上の都合」が50%以上を占めており、60代以上では「他に住みたい場所がある」が比較的多くみられる。



- ▶ 今後転居する可能性がある地域（転居先）について、自由記述回答から分類すると、具体的な転居先の記述がない回答が約 67%あったが、記述されていた中では、現住地とは異なる都道府県を挙げた回答が比較的多かった。



※複数の転居先を挙げている場合があるため、各分類を合計した数値は回答数(N)と一致しない。

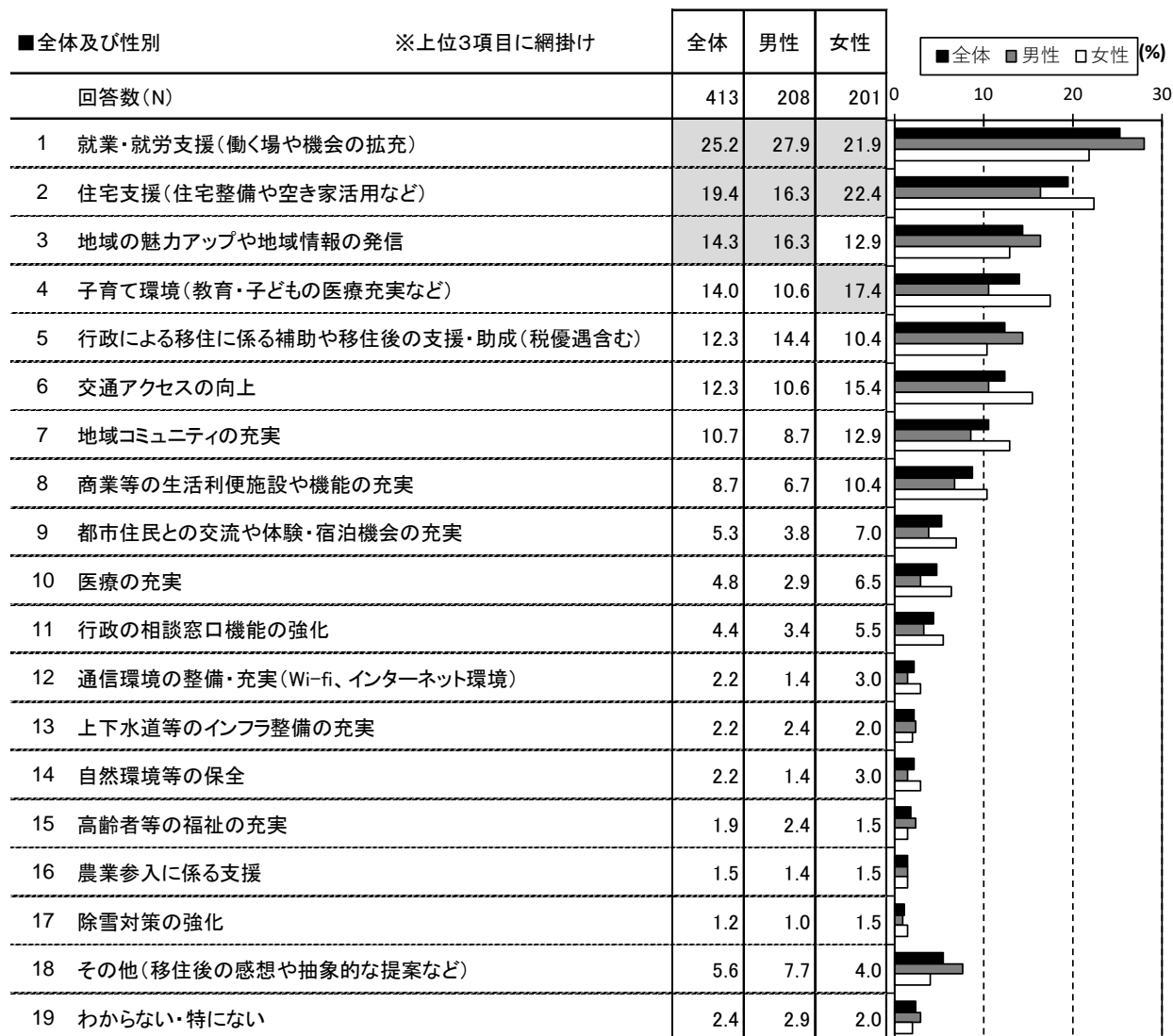


※複数の転居先を挙げている場合があるため、各分類を合計した数値は回答数(N)と一致しない。

④都市部から農山漁村地域への移住者を増やすために必要だと思う支援等

問13. 最後に、ご自身の体験を踏まえ、都市部から農山漁村地域への移住者を増やすために必要だと思う支援や有効だと思う取組などがあれば、ご記入ください。

- ▶ 過疎地域への移住者を増やすために必要な支援や有効な取組について 413 件の記述回答が得られた。これらの記述内容を分類集計したところ、最も多かったのは「就業・就労支援」であり、特に男性から多く意見が寄せられた。
- ▶ 次いで移住者のための住宅整備や空き家の活用などの「住宅支援」や、教育・子供の医療の充実など「子育て環境」に係る支援が必要という意見が多く、これらは女性の方が多く指摘している。



- ▶ 年齢別でみると、「就業・就労支援」は40代で最も多くから挙げられており、「住宅支援」についても40代及び50代で比較的多くの意見がみられる。一方、10・20代は「子育て環境」を挙げた回答が最も多く、21.8%となっている。
- ▶ 30代は「就業・就労支援」に次いで「地域の魅力アップや地域情報の発信」が必要という意見が多く、他の年齢より高くなっている。

